

2024年度 決算説明会

2025年6月2日



この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ

2024
年度

5期連続の増益

親会社株主に
帰属する当期純利益

274億円

(前年比+61億円)

2025
年度

中計KPI※ 1年前倒し達成

親会社株主に
帰属する当期純利益

330億円

2026
年度

更なる利益成長へ

親会社株主に
帰属する当期純利益

400億円以上

ROE **7%**以上

※中計KPI（当初）

2026年度「親会社株主に帰属する当期純利益300億円」、「ROE5%以上」

I . 2024年度決算および2025年度業績予想

- 2024年度決算
 - 概要 5
 - 資金利益（銀行単体） 6
 - フィービジネス関連収益（グループ合算） 7
 - 経費・与信費用（銀行単体） 8
- 2025年度業績予想 9
- 株式還元 10
- 政策投資株式 11



II .企業価値向上に向けて

- 中期経営計画の概要と進捗状況 13
- 長期経営計画での取組み 15
- キャピタルアロケーション 16
- 今後の取組み
 - トップラインの増強 19
 - 預金獲得、人員の捻出・戦略再配置 25
 - 持続的な成長 27
- 最後に 32

III .Appendix

- 主要計数 35

第 I 部

2024年度 決算

および

2025年度 業績予想

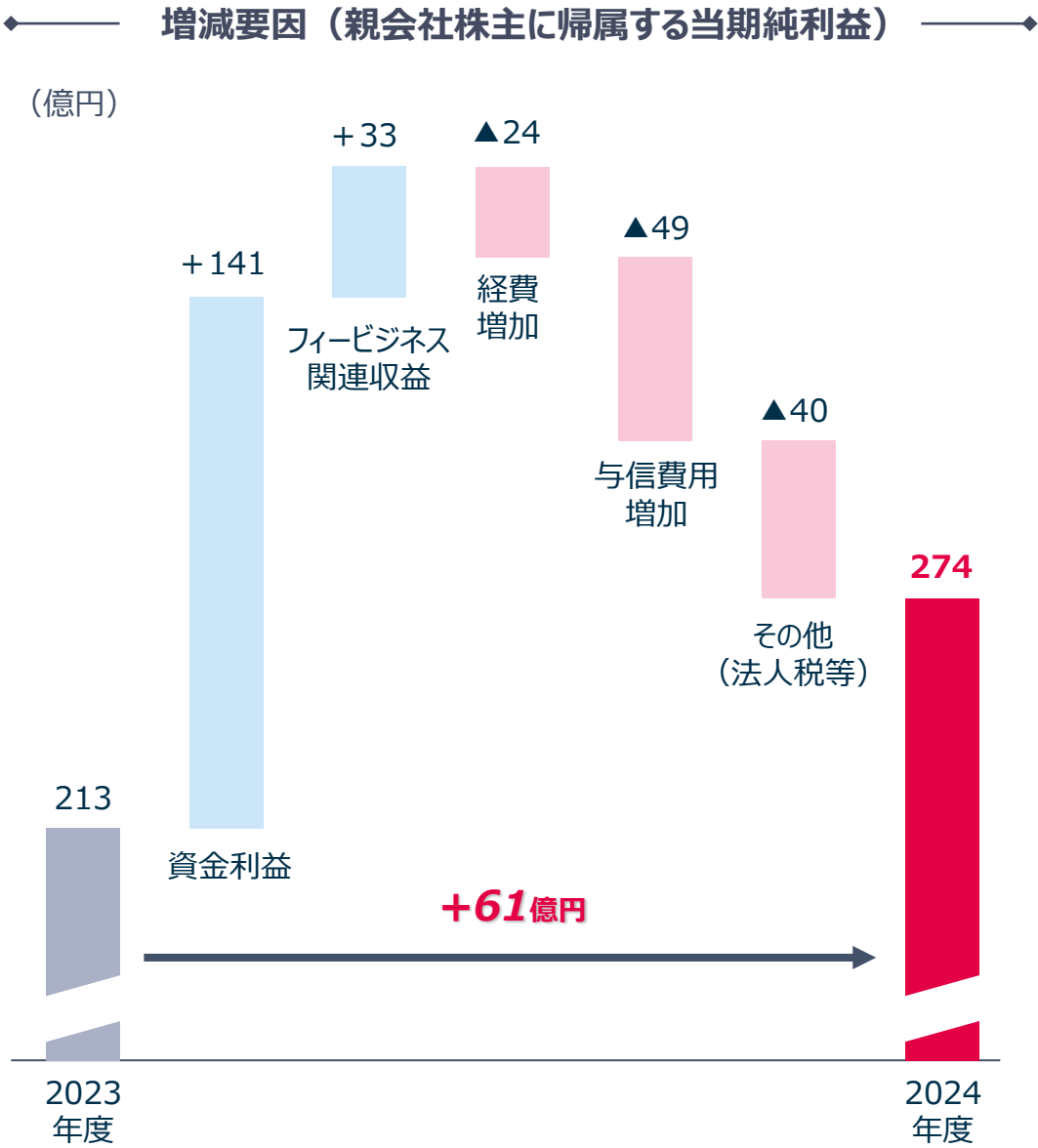
トップラインが大きく拡大し、5期連続の増益

※2024.11.8 公表利益

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結 (億円)	2023年度 実績	2024年度 実績	※2024.11.8 公表利益	
			前年比	公表比※
連結経常利益	311	383	72	28
親会社株主に帰属する当期純利益	213	274	61	24

<参考：中国銀行単体>

コア業務粗利益	843	997	154	24
経費（▲）	528	552	24	▲ 4
コア業務純益	314	445	131	28
うち 与信費用（▲）	85	134	49	▲ 14
うち 有価証券関係損益	48	25	▲ 23	▲ 20
経常利益	266	345	79	25
当期純利益	184	252	68	22



【資金利益の内訳（銀行単体）】

(億円)		2023年度 実績	2024年度 実績	前年比
①資金利益		622	763	141
	邦貨資金利益	544	652	108
	うち、貸出金利息	402	507	105
	うち、有価証券利息	168	212	44
	うち、投資信託解約損益	0	2	2
	外貨資金利益	78	111	33
	運用収益	659	754	95
	調達コスト（▲）	581	643	62
その他業務利益		19	17	▲ 2
②	うち、外貨調達コスト(▲)	1	1	0
(参考)				
①+② 資金利益（実質）		621	762	141

邦貨・外貨ともに
貸出金利息が大きく伸長

【フィービジネス関連収益の内訳（グループ合算）】

		2023年度 実績	2024年度 実績	前年比
(億円)				
フィービジネス関連収益		271	304	33
中国銀行		216	239	23
投資銀行業務	（役務利益計上額）	49	56	7
預り資産関連		52	60	8
その他役務利益		98	99	1
デリバティブ手数料等		15	22	7
中国銀行以外のグループ会社（※）		54	64	10
中銀リース		12	17	5
中銀カード		9	9	0
ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ		1	1	0
Cキューブ・コンサルティング		1	4	3
中銀証券		25	26	1
中銀アセットマネジメント		4	5	1

グループ全体で
フィービジネス拡大

※中銀リースは粗利益、それ以外のグループ会社は営業収益（内部取引控除後）

【経費の内訳（銀行単体）】

(億円)	2023年度 実績	2024年度 実績	前年比
経費	528	552	24
人件費	276	284	8
システム経費	69	71	2
その他物件費	119	124	5
預金保険料	11	11	0
経営管理料 ※	17	24	7
税金	33	35	2

※持ち株会社へ支払う経費（FG連結では相殺）

OHR 62.7% 55.3% ▲ 7.4pt

【与信費用の内訳（銀行単体）】

(億円)	2023年度 実績	2024年度 実績	前年比
与信費用	85	134	49
一般貸倒引当金繰入	64	21	▲ 43
個別貸倒引当金繰入	20	113	93
その他の与信費用 ※	▲ 0	0	1

※貸出金償却、特定海外債権引当、債権売却損失引当、債権売却損、償却債権取立益

■一般貸倒引当金の算定方法

- ・3年間で1算定期間とし、各貸倒実績率から予想損失率を算出。（各算定期間は半年ずらし）
- ・予想損失率は、「直近3算定期間平均」、「直近5算定期間平均」、「2008/9期を期首とした長期平均」のいずれか高いものを使用。（2022/9期より変更）
- ・「正常先」「要注意先Ⅰ」債権については、貸出債権の平均残存年数を考慮した調整を行っている。

ベースアップ・戦略投資等を実施

大口の引当影響の重なり

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結 (億円)	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想	
				前年比
連結経常利益	311	383	476	93
親会社株主に帰属する当期純利益	213	274	330	56

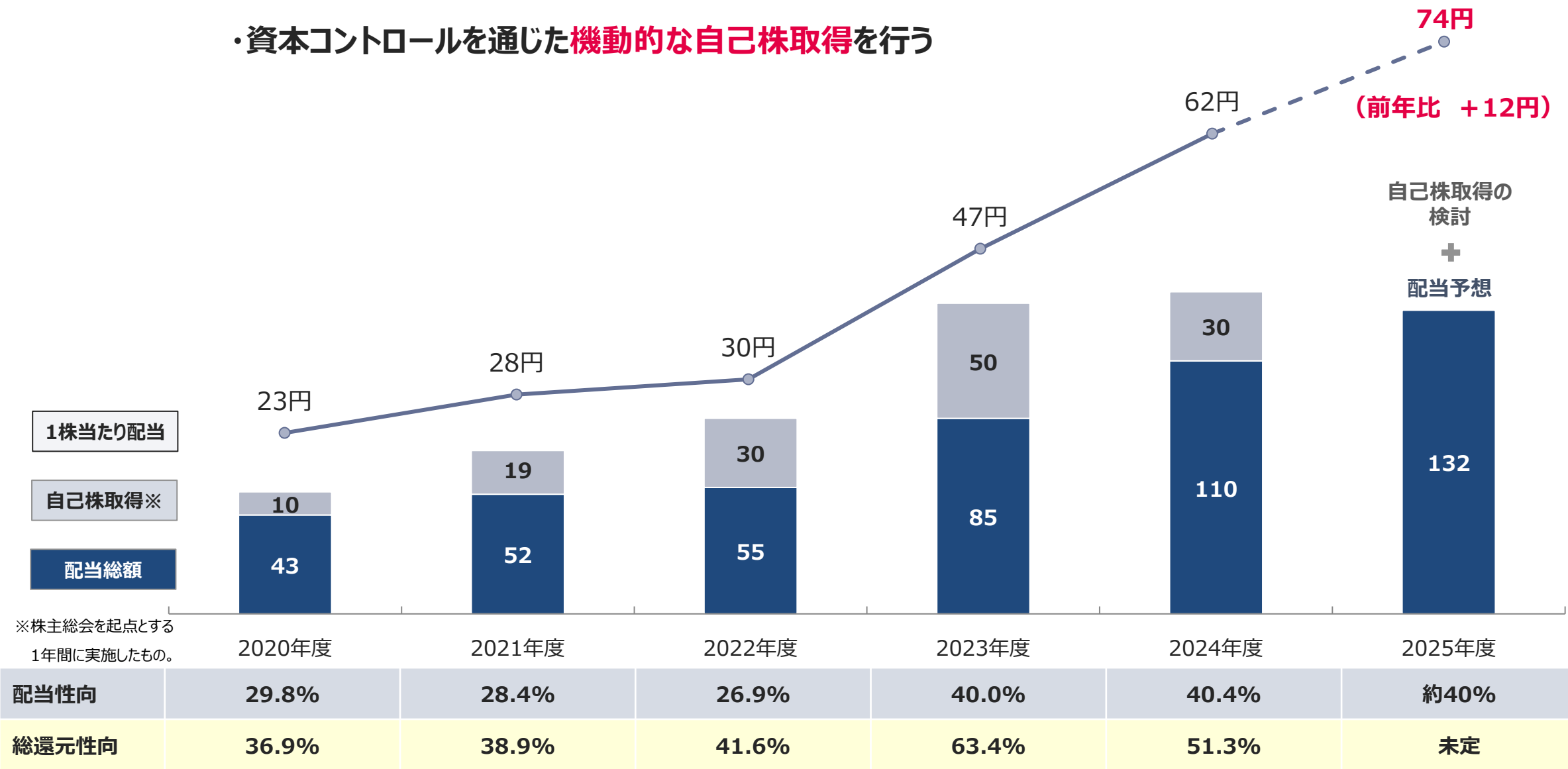
親会社株主に
帰属する当期純利益 **330**億円 (2025年度)

<参考：中国銀行単体>

コア業務粗利益	843	997	1,111	114
経費 (▲)	528	552	627	75
コア業務純益	314	445	484	39
うち 与信費用 (▲)	85	134	75	▲ 59
うち 有価証券関係損益	48	25	15	▲ 10
経常利益	266	345	433	88
当期純利益	184	252	303	51

中計KPI
1年前倒し達成

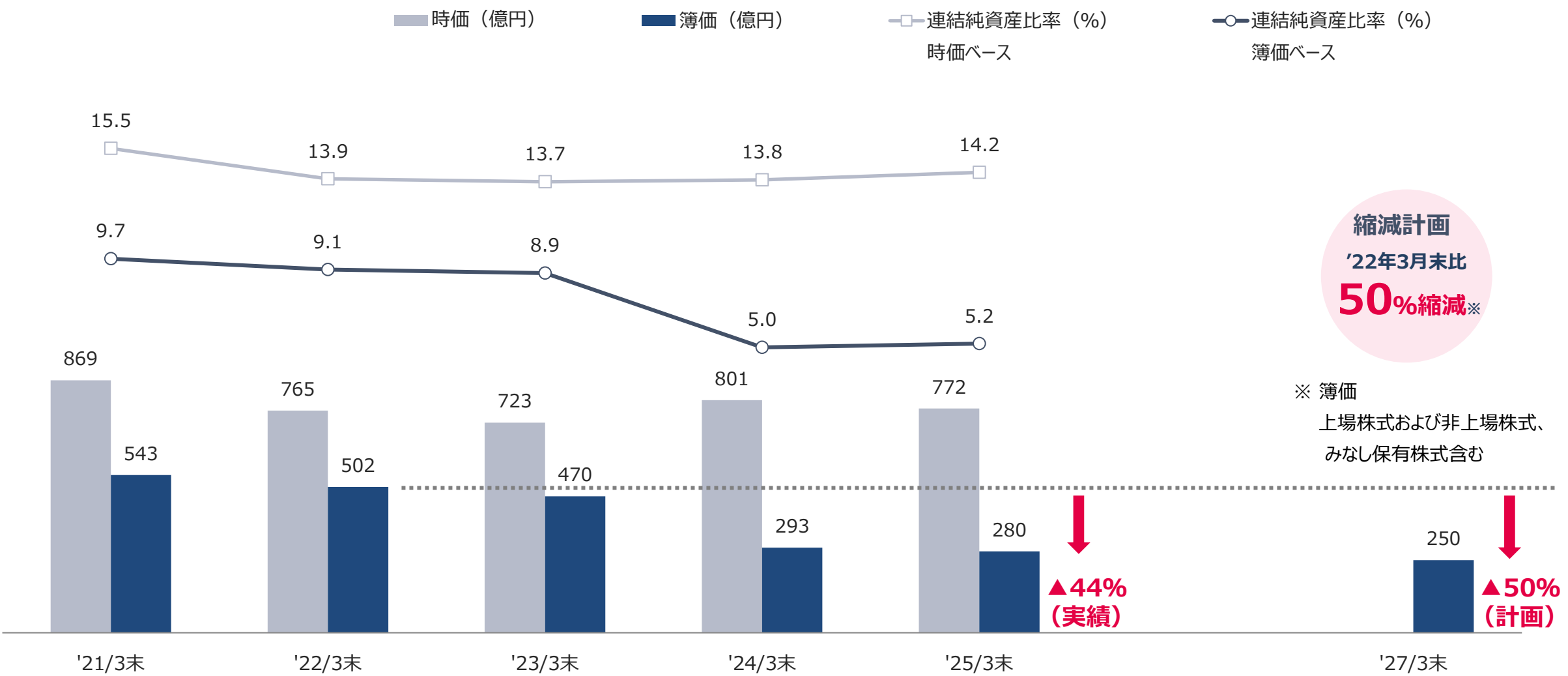
- 【2025年度】・配当性向40%程度を目標とし、利益成長を通じた配当拡大を行う
- ・資本コントロールを通じた機動的な自己株取得を行う



※株主総会を起点とする
1年間に実施したもの。

’20年度以降：中国銀行連結利益ベース、’22年度以降：ちゅうぎんFG連結利益ベース

- 【基本方針】
- ・保有先および当社グループの持続的な成長や企業価値の向上に必要と判断される場合に限定的に保有する。
 - ・資本の効率性や株式保有リスクの抑制等の観点から、保有先との対話を通じながら縮減を進める。



第Ⅱ部

企業価値向上に向けて

中期経営計画
「未来共創プラン ステージⅢ」
2023.4～2027.3

成果発揮・新たな挑戦

1 地方創生SDGsの「深化」

地域の魅力・ポテンシャルを引き出し「**地域の持続的な発展**」に貢献します

2 イノベーションの創出

次なる成長に向けた「**新たな価値**」を創造します

3 グループ経営基盤の強化

成長戦略を実行するための「**強固な土台**」を築きます

● 財務KPIの状況

財務KPI	2026年度目標	2024年度実績	【参考】2023年度実績
➢ 親会社株主に帰属する当期純利益	上方修正 400億円以上 300億円	274億円	213億円
➢ ROE	上方修正 7%以上 5%以上	4.88%	3.85%
➢ 普通株式等Tier1比率（有価証券評価差額金等除く）	11～12%	11.58%	12.12%

ROEは東証水準（その他有価証券評価差額金を含むベース）

● 非財務KPI（サステナビリティKPI）の状況

成長戦略	サステナビリティKPI	2026年度目標	2024年度実績	【参考】2023年度実績
1 地方創生SDGs の「深化」	➢ CO2排出量削減（2013年度対比）	▲72%	▲65%	▲46%
	➢ サステナブルファイナンス累計実行額	上方修正 1.5兆円 1兆円	1兆1,525億円	9,422億円
	➢ コンサルティング受託件数（年間）	460件	380件	356件
	➢ 預り5商品保有先数および住宅ローン先数	26万先	22万先	21.4万先
	➢ 相続関連業務取扱件数（年間）	800件	734件	553件
2 イノベーション の創出	➢ 業務モデル変革（業務・チャネル・組織）	定性評価	-	-
3 グループ経営基盤 の強化	➢ 女性管理・監督者比率（BK単体）	25%	22.9%	17.7%
	➢ 人的資本投資額	上方修正 10億円 5億円	5億円	4.1億円

親会社株主に帰属する当期純利益（億円）

更なる利益成長へ 400以上

5期連続の増益



金利前提

- 【国内】
- ・政策金利
 - ’25下期～ 0.75%
 - ’26下期～ 1.00%
 - ・国債10年
 - ’25年度 1.20～1.30%
 - ’26年度 1.40%
- 【海外】
- ・FF金利
 - ’25下期～ 4.25%
 - ’26上期～ 4.00%

ステージ I

2017.4～2020.3

構造改革（ハード面強化）

- B P R投資（事務から営業へ）

ステージ II

2020.4～2023.3

行動改革（ソフト面強化）

- 自律的営業体制・人事制度
- 新事業開拓加速
- 持株会社体制移行

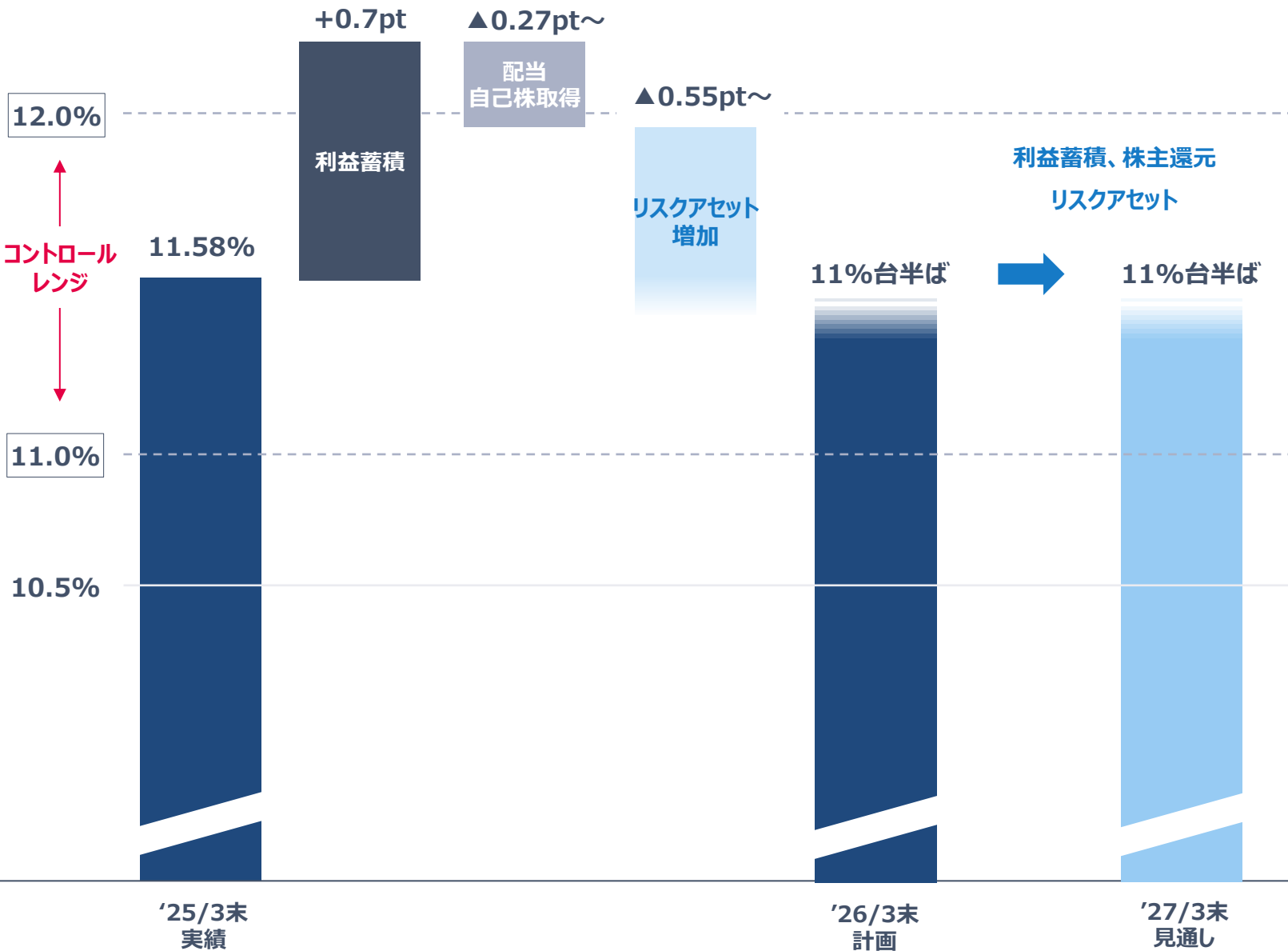
ステージ III

2023.4～2027.3

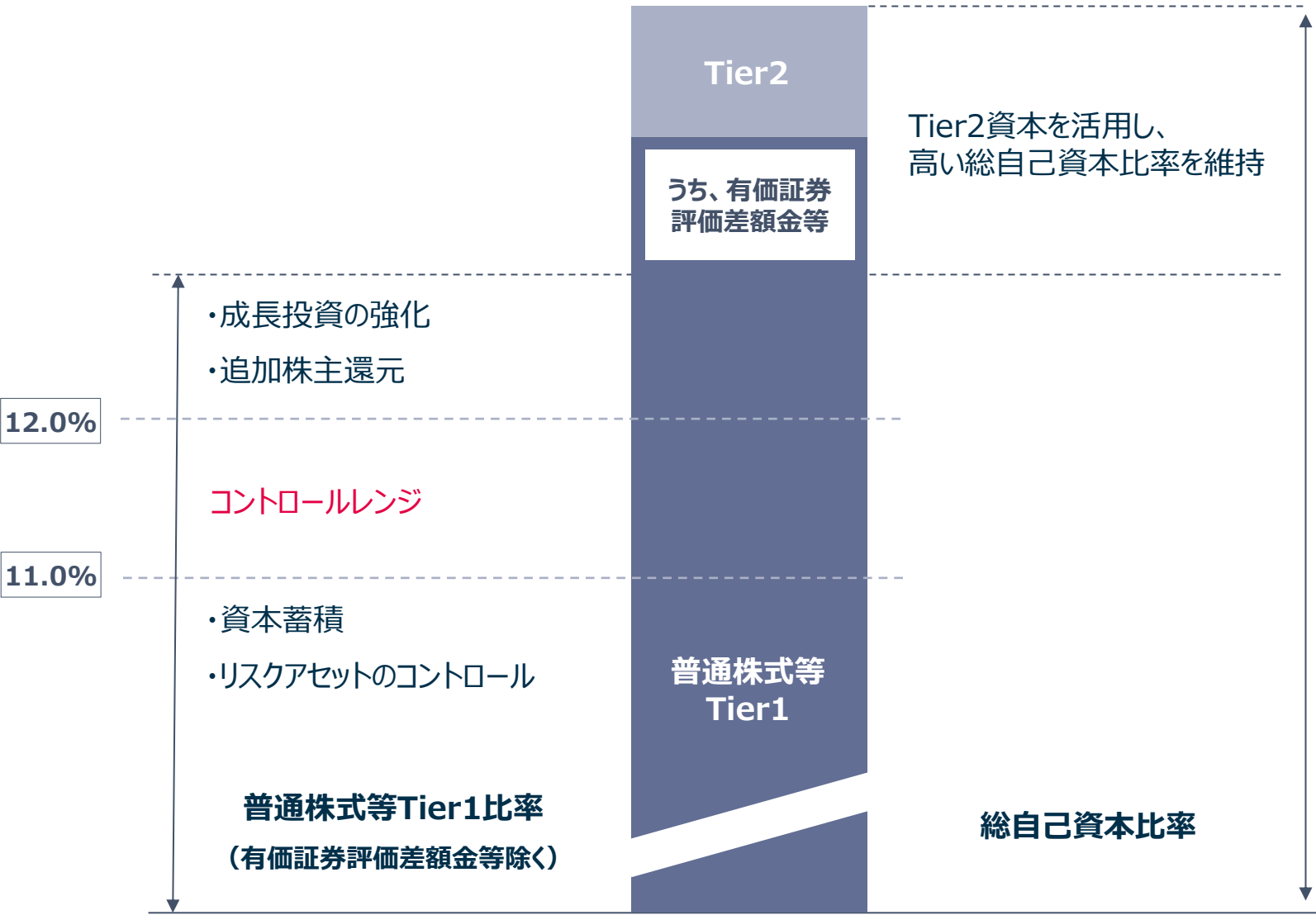
成果発揮・新たな挑戦

- ちゅうぎんDX戦略
- ユニット体制構築

普通株式等Tier1比率（FG連結・有価証券評価差額金等除く）



資本コントロールの実施により
良質なアセットを積上げ



強固な健全性と
高い資本効率を両立

1.

トップラインの増強

- ✓ ユニット体制を活かして各戦略・施策を加速

2.

預金獲得、人員の捻出・戦略再配置

- ✓ アセットの積上げに重要な粘着性の高い預金を獲得
- ✓ 業務プロセスの改革を通して、注力分野へ人員をシフト

3.

持続的な成長

- ✓ 地域・お客さま・従業員と分かち合える豊かな未来を共創（経営理念の実践）



- ✓ 役割の明確化
- ✓ 迅速な意思決定
- ✓ ちゅうぎんグループの総合力発揮

各戦略・施策の取組みを加速

地元事業性

地域特性

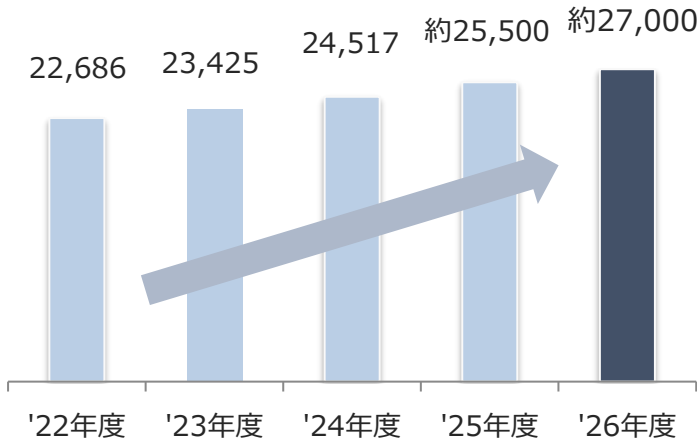
製造業（水島コンビナート）
物流（交通の要衝）
船舶（瀬戸内の海事産業）
など

ニーズ・課題

人手不足、事業承継
脱炭素、DX対応
金利環境の変化
など

ちゅうぎんFGのソリューション

平残推移（億円）



個人ローン

業務プロセス改革（住宅ローン申込）

これまで

2024年7月～

約 80項目
（手書き）

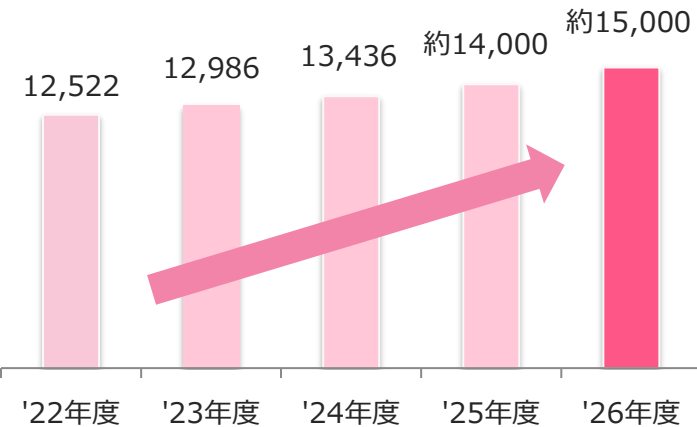
約 20項目
（Web入力）

オンライン完結による利便性向上・審査時間短縮により

申込件数増加

（事前審査約50%増、正式審査約30%増）

平残推移（億円）



地元を中心に
良質なアセットを積上げ

幅広いソリューションメニュー

ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ

地域商社 せとのわ

ちゅうぎんエナジー

Cキューブ・コンサルティング

ちゅうぎんキャピタルパートナーズ

中銀カード

中銀リース

中銀アセットマネジメント

中銀証券

中国銀行

・中銀事務センター

・中銀保証

・CBS

ヒト

モノ

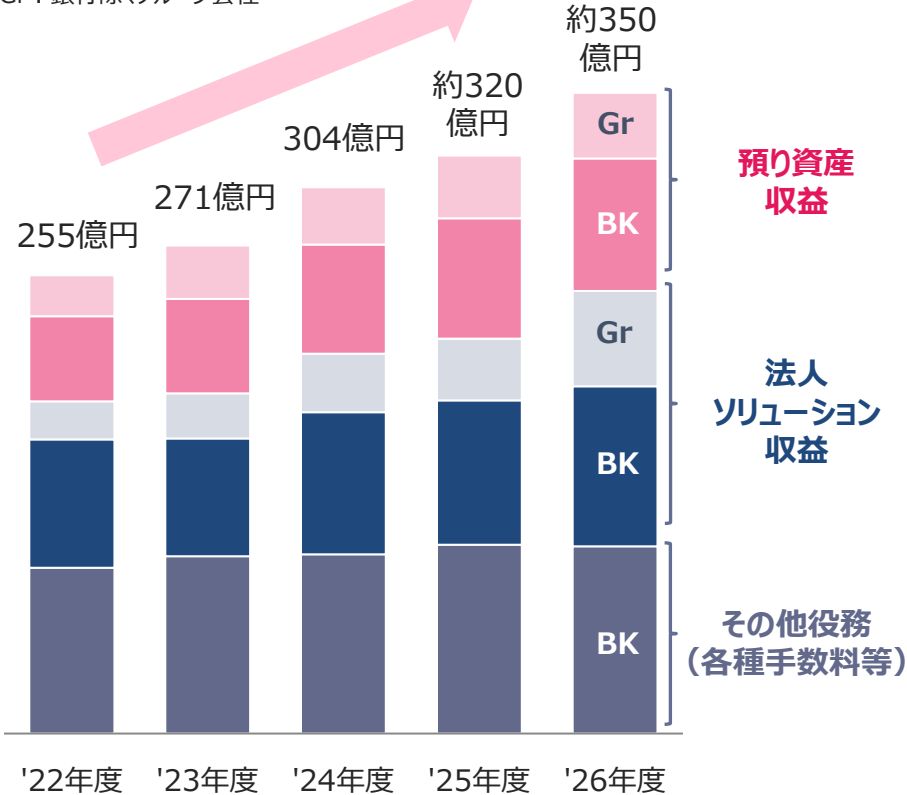
カネ

銀行→グループ会社
連携件数
約**120%**
(’22年度→’24年度)

更なる
連携強化へ

フィービジネス関連収益推移

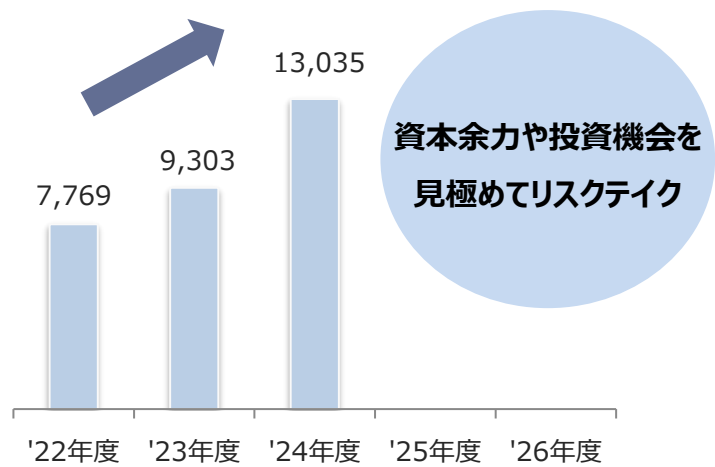
BK：銀行
Gr：銀行除くグループ会社



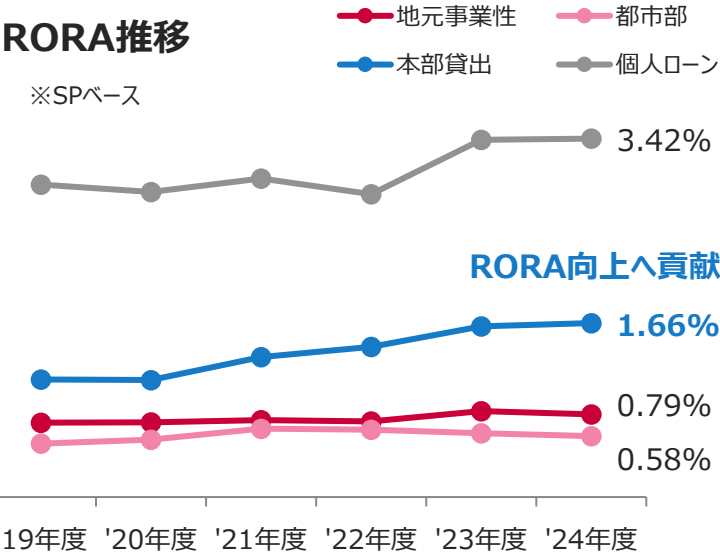
グループ一体で
コンサルティング収益を拡大

ストラクチャードファイナンスの取組み（本部貸出）

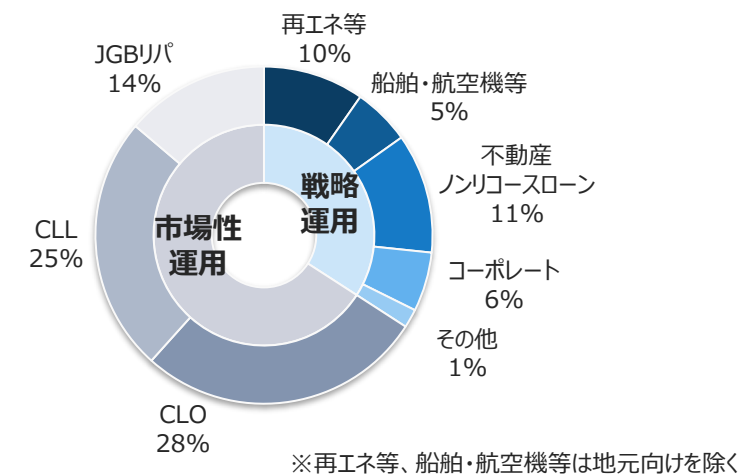
平残推移（億円）



RORA推移



残高構成比（'25/3末時点）



戦略運用

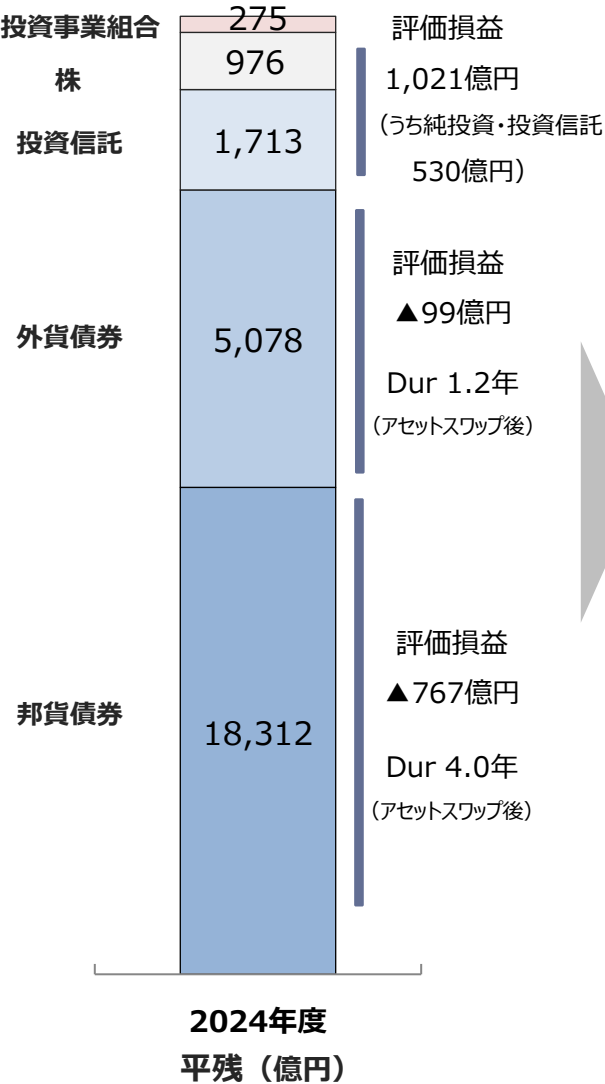
高度なノウハウ・知見を通じて
多様な案件へ取組み

市場性運用

マーケット環境に応じて
有価証券と一体で運用

適切なリスク・リターンにより
高い収益性を確保

有価証券運用の取組み



外貨債券

引続き金利リスクを抑制して運用

※米国FF金利の高止まり（4%水準）を想定

対応済

邦貨債券

① 保有債券入替によるポートフォリオ改善の継続

- ・償還分への再投資

償還見込み（'25年度～'27年度）

- ・年間 約1,500億円～2,000億円
- ・利回り 約0.2～0.3%

・低利回債の戦略的な入替

株、投資信託の評価益余力も活用

② 戦略的な金利リスクテイク

- ・24下～25下にかけて時間分散を図りながら購入

合計3,000億円（利息 約30億円）の積上げ

※IRRBB余力「低下シナリオ ▲EVE302億円（25.3末）」

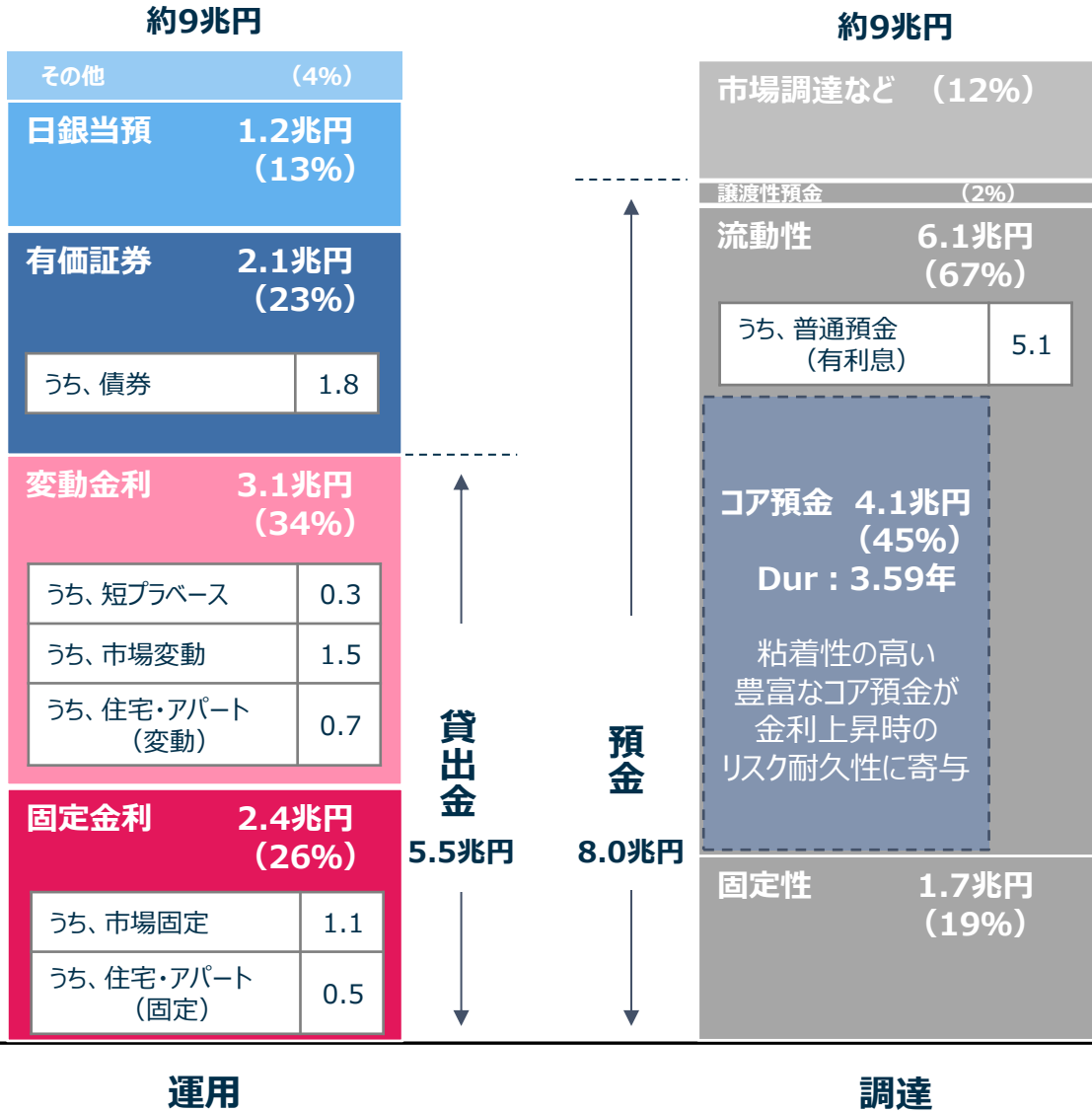
※評価損益の変動は総自己資本（Tier2資本含む）でカバー

利回り改善

追加投資

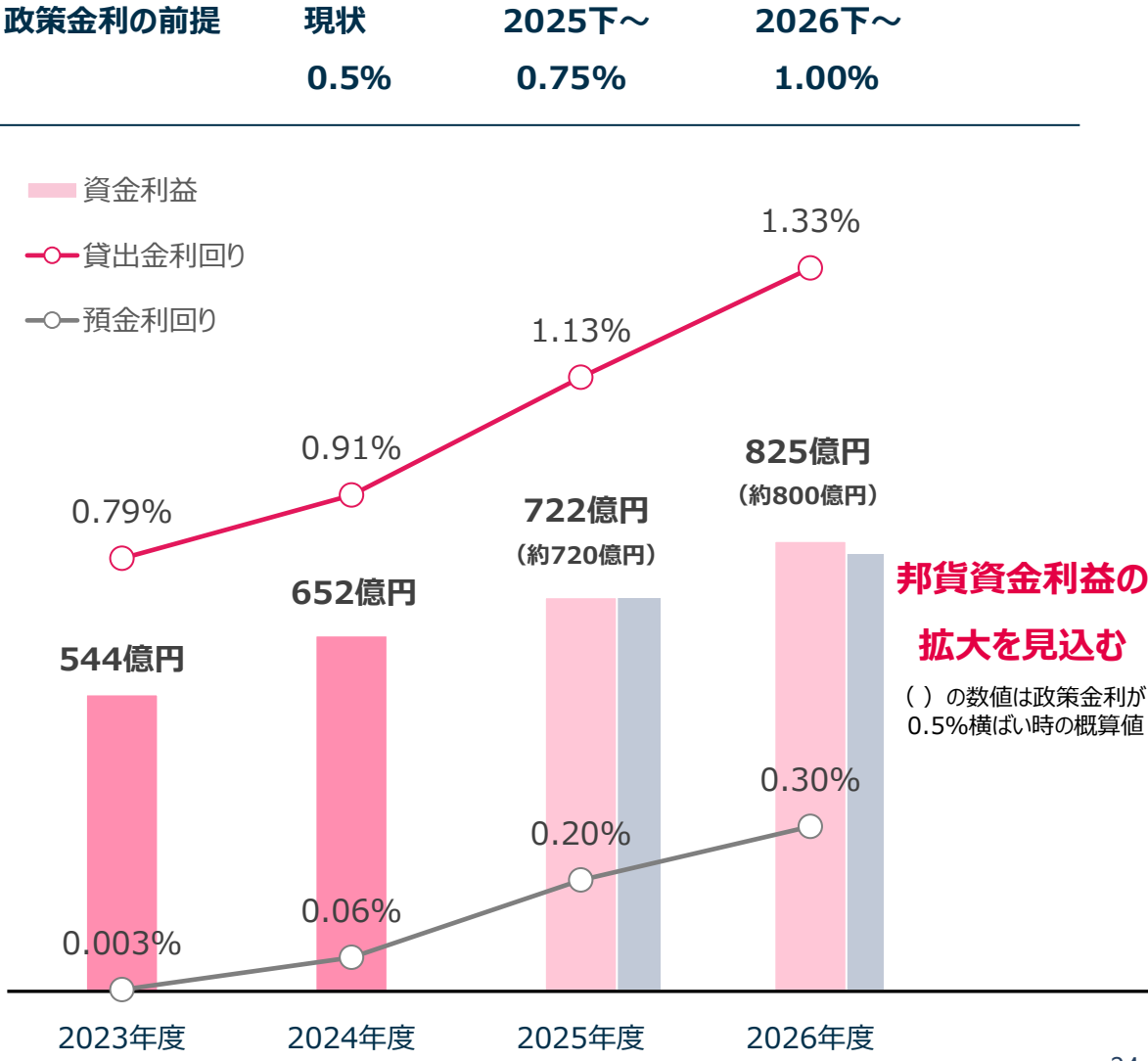
金利ある世界での
最適なポートフォリオを構築

邦貨バランスシート（'24年度平残：銀行単体）



邦貨資金利益の見通し

※計画上の残高増加を考慮



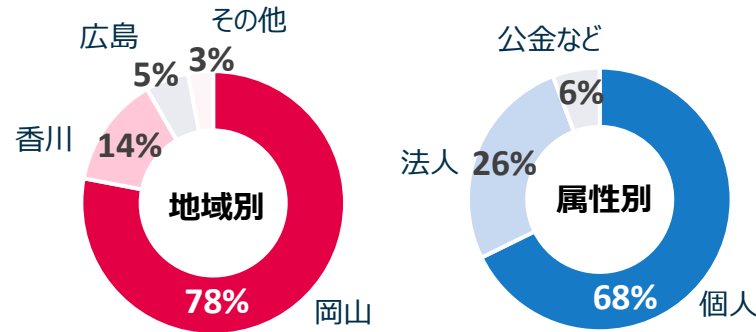
足元の状況

✓ 地元地域での強固なシェア

岡山県
預金シェア **51.4%**

【特徴】 地元地域におけるお客さまの生活口座（個人）、取引口座（法人）が中心

✓ 粘着性の高い安定した預金



粘着性の高い
預金獲得を強化

取組み

個人

新商品の導入

非対面ツールの利便性向上

法人

職域取引の拡大

預金シェア拡大に向けた営業強化

地域

ベースとなる地域の発展

▶ 調達基盤の安定へ

ちゅうぎんアプリ

16万 ▶ **42万** ▶ **50万** ユーザー
('22年度末) ('24年度末) ('26年度)

ちゅうぎんビジネスポータル

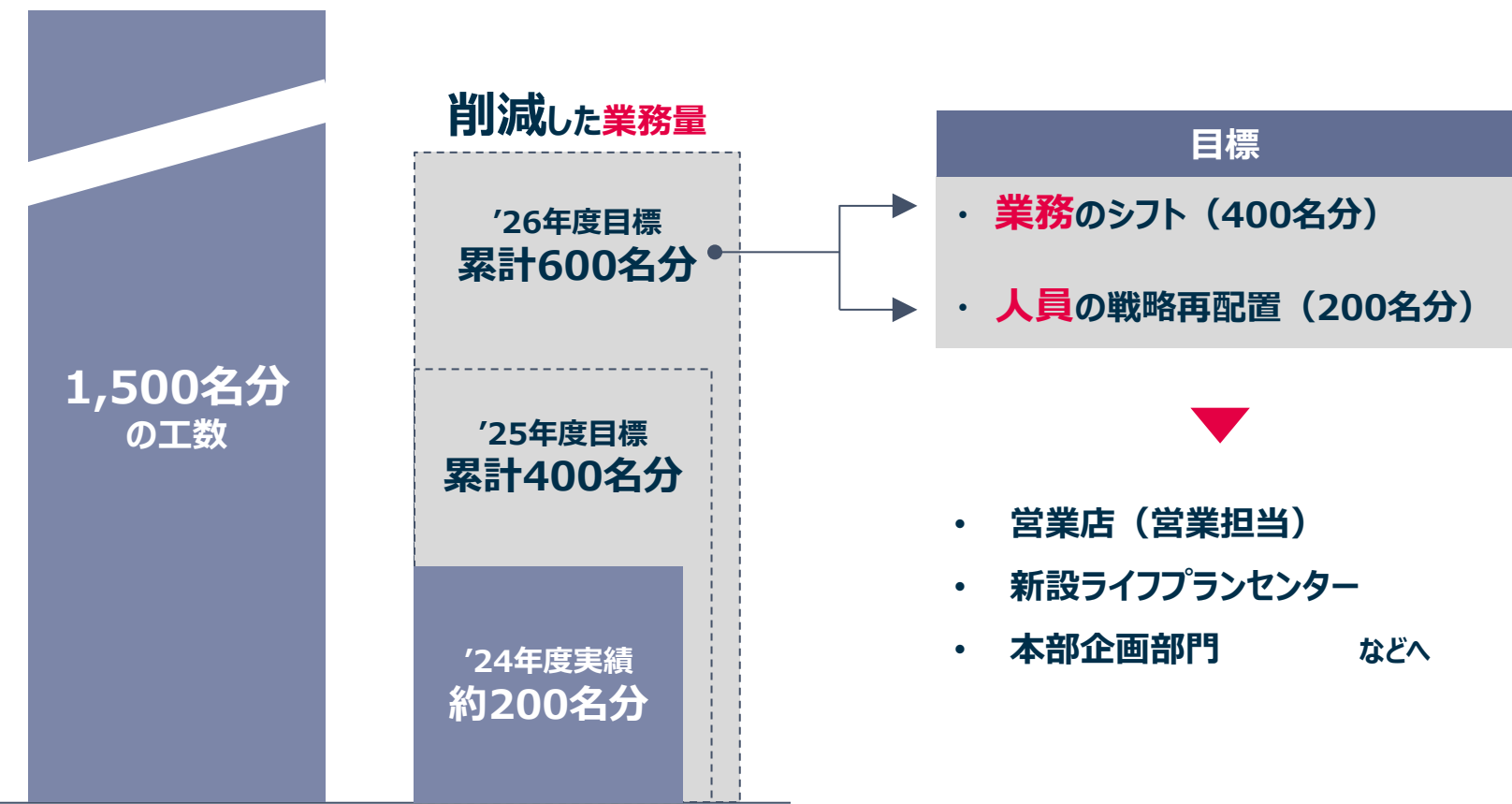
0.4万 ▶ **1.4万** ▶ **2万** ユーザー
('22年度末) ('24年度末) ('26年度)

業務プロセスの改革

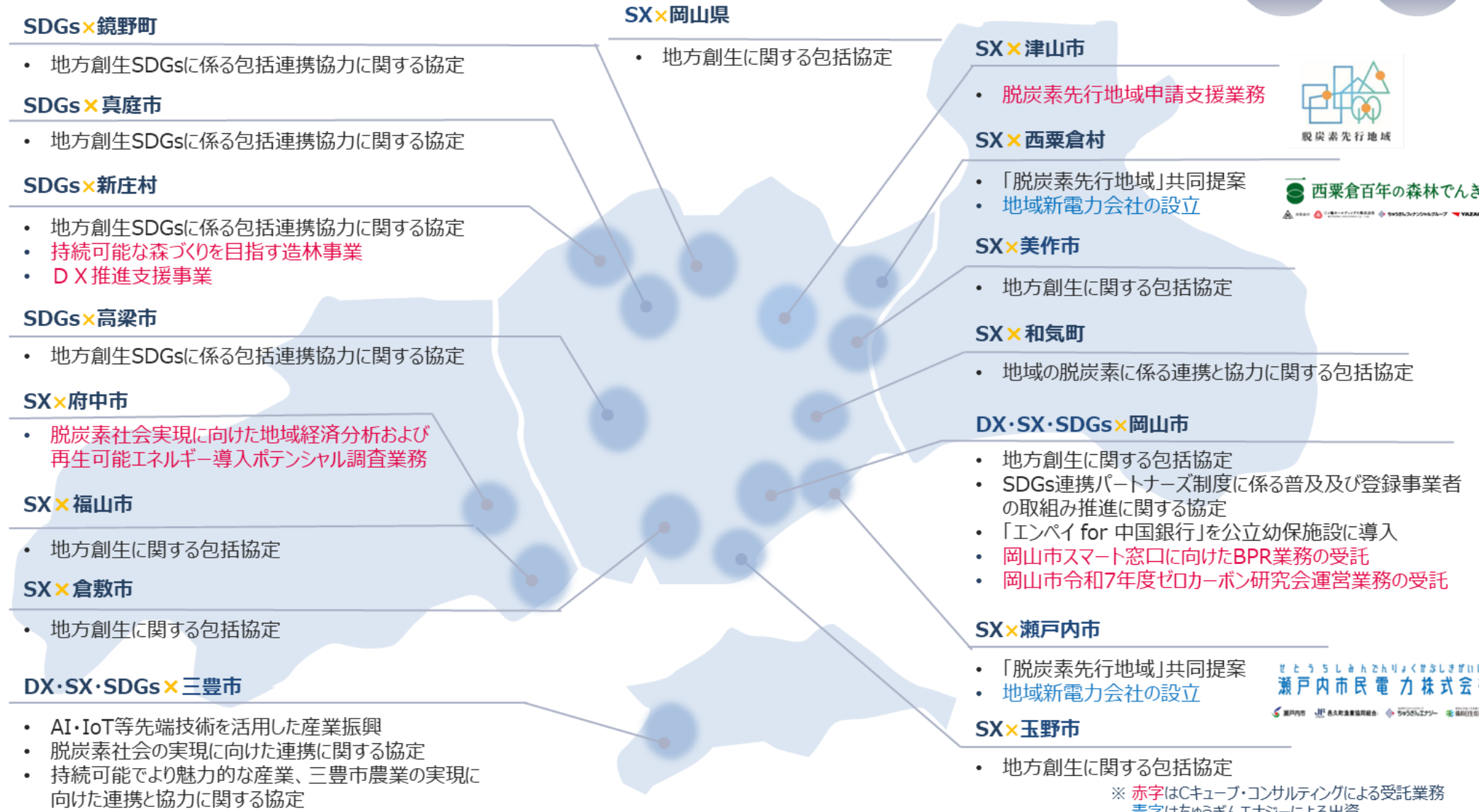
方針・特徴

- ✓ グループ横断で検討
- ✓ 業務別にプロジェクト化
- ✓ グループ内のノウハウを活かして内製で対応

可視化した業務量



注力分野への
業務シフト・戦略再配置を
着実に実行



※ 赤字はCキューブ・コンサルティングによる受託業務
青字はちゅうぎんエナジーによる出資

創業支援

創業エコシステム

2017~2025年3月累計

✓ プログラム参加者 400名以上

✓ 新設法人数 33社

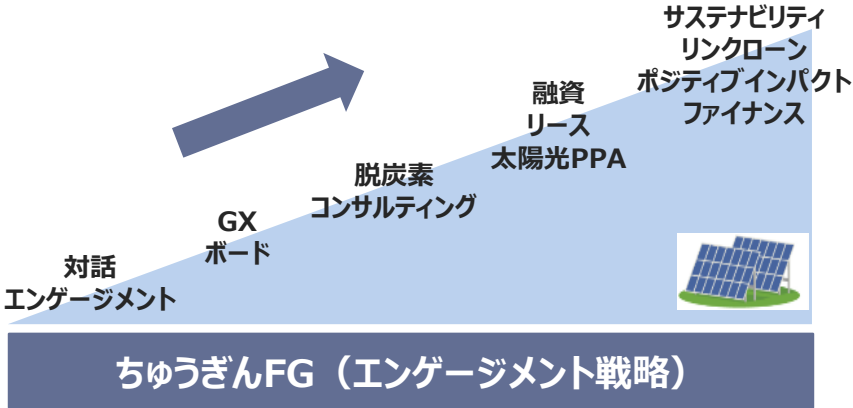
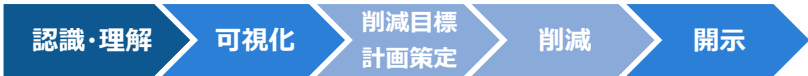
▼

地域を代表する企業へ

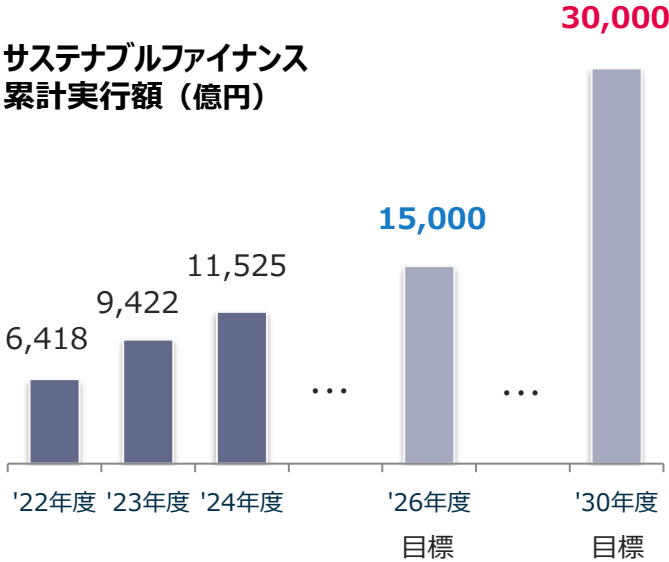


脱炭素

地域のお客さま



サステナブルファイナンス
累計実行額（億円）



地域課題の解決と
ビジネスチャンス

広域連携

- TSUBASAアライアンス



＜主な取組み＞

トップライン増強	協調融資
	相続関連業務
コスト削減	基幹系システム共同化
	TSUBASA FinTech共通基盤
業務の高度化	AML業務の高度化
SDGs	非化石証書の共同購入

地域連携

- おかやま共創パートナーシップ



- おかやま未来共創アライアンス



- 地域脱炭素創生・岡山コンソーシアム



- 山陽地域のサステナビリティ推進に向けたパートナーシップ協定



地域の持続的な発展に向けて
様々なステークホルダーと連携

異業種連携

連携により
目指す方向性

- ✓ リソースの相互活用
- ✓ 成功モデルの横展開



地域・お客さまと
豊かな未来を共創

＜これまでの主な取り組み＞

- **リクルート**
「スーモカウンター」の利用者が住宅ローン優遇金利の適用を受けられるキャンペーンを実施
- **BIPROGY**
金融機関の営業店業務におけるペーパーレス化とDXの支援に向けて、金融機関向けスマートワークフローサービス「GOAT-Lab」の共同開発を開始
- **dotData**
岡山県内の学生を対象に「ビジネスアナリティクス人材育成講座」を実施
- **松尾研究所**
地元企業向けの生成AIセミナーを共催

＜今後の主な取り組み＞

他社チャネルを
活用した商圈拡大

地元企業と連携した
事業スキーム検討

内製システムの
外販手法・体制の検討

BPOサービスの
地元企業への展開

異業種連携を通じて
従来の発想を超えた
新たな価値を共創

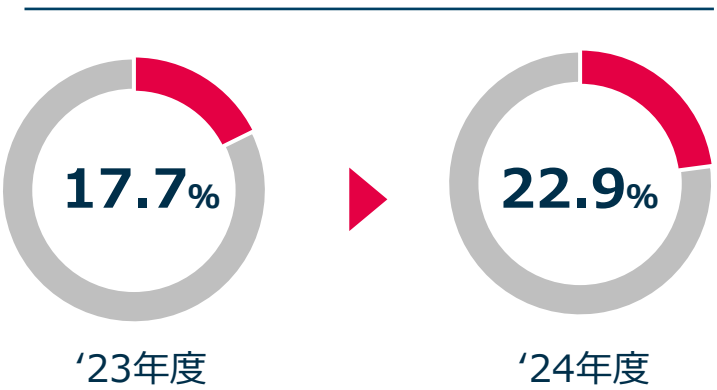
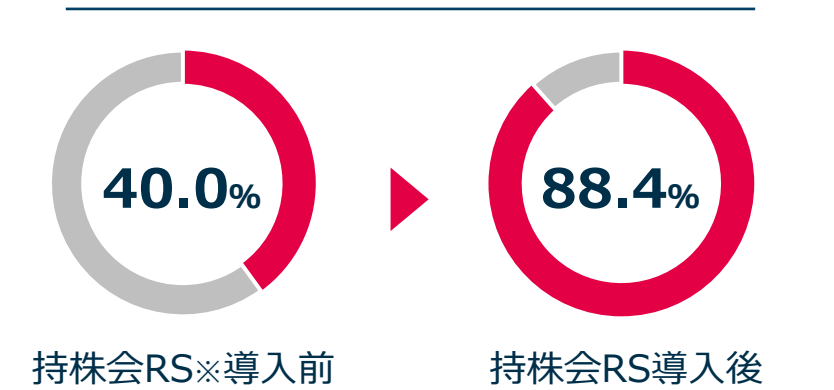
投資額の拡大



従業員への投資を拡大
(エンゲージメント向上)

従業員持株会加入率

女性管理・監督者比率 (BK単体)



※従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度 (’25年2月)

※’26年度KPI…25%、’30年度KPI…30%

	'24年度 実績	'25年度 計画	'26年度 新KPI
当期純利益	274億円	330億円	400億円以上
ROE	約4.8%	約6.0%	7.0%以上
RORA	約0.63%	約0.7%	0.8%以上
財務レバレッジ	約7.8倍	約8.5倍	8.5倍以上
PER	約11倍 (直近水準)	約11倍 (横這いと仮定)	約11倍 (横這いと仮定)
PBR	約0.55倍	約0.6倍	約0.8倍

企業価値の向上に向けて

KPI達成による

将来にわたる

ROE改善

持続的成長

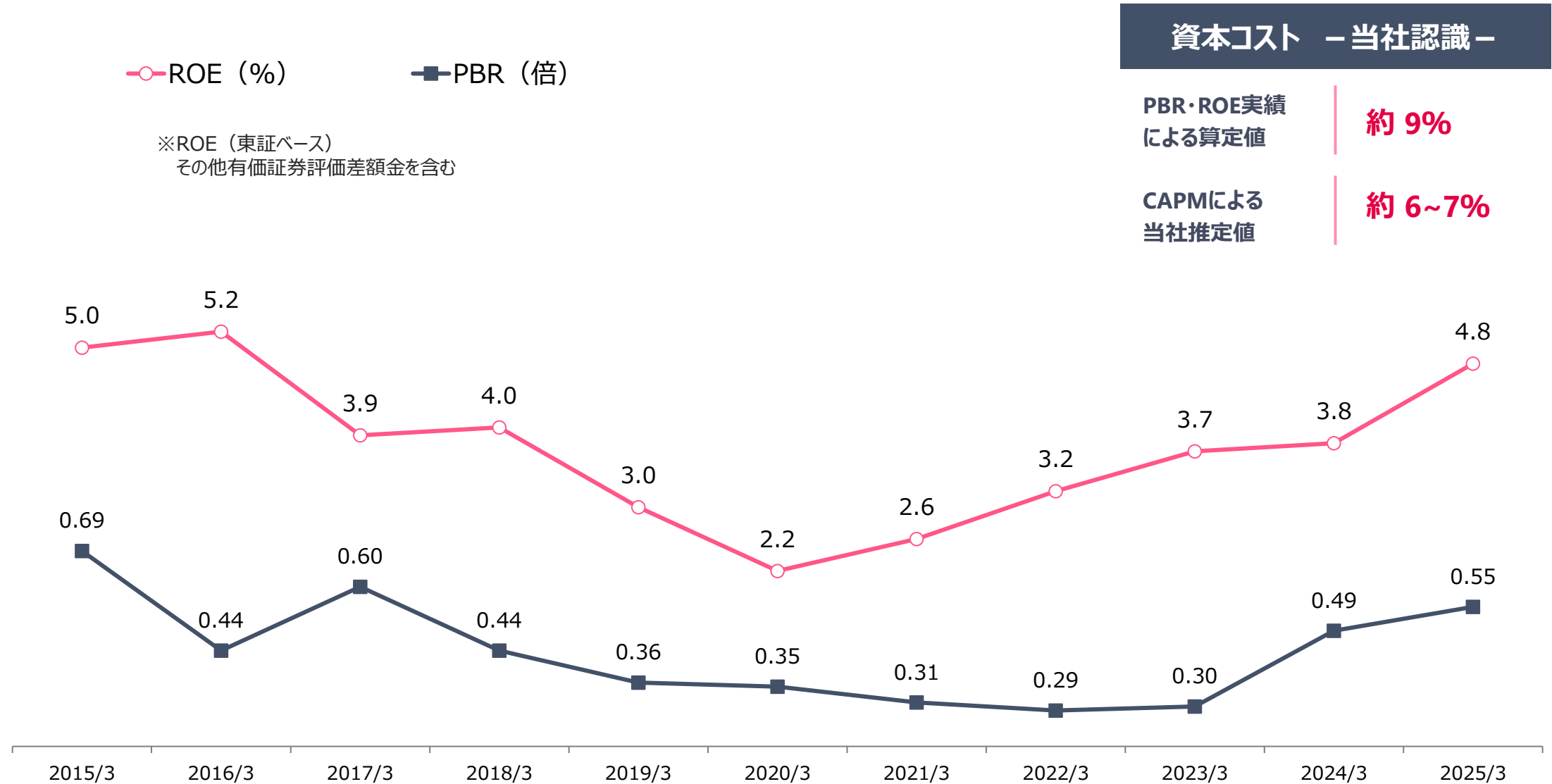
- ✓ トップライン増強
(ユニット戦略の加速)
- ✓ 資本効率

- ✓ 土台となる預金・人財
- ✓ 人的資本投資
- ✓ 地方創生SDGsの深化

成長期待の向上

- ✓ 情報開示・コミュニケーション
- ✓ ROE実績

PBR1倍超へ



第Ⅲ部

Appendix (主要計数)

資金利益や役務利益を中心にトップラインが大きく拡大

※2024.11.8 公表利益

ちゅうぎんフィナンシャルグループ連結 (億円)		2022年度	2023年度	2024年度	前年比	公表比※
連結粗利益		732	917	1,052	135	－
(債券関係損益除く)		930	925	1,080	155	－
資金利益		650	622	753	131	－
役務取引等利益		171	185	202	17	－
その他業務利益		▲ 88	109	95	▲ 14	－
うち、債券関係損益		▲ 197	▲ 7	▲ 28	▲ 21	－
経費 (▲)		556	578	595	17	－
与信費用 (▲)		57	89	140	51	－
株式関係損益		180	59	53	▲ 6	－
その他		▲ 3	2	13	11	－
経常利益		296	311	383	72	28
特別損益		▲ 0	▲ 2	▲ 0	2	－
親会社株主に帰属する当期純利益		204	213	274	61	24

戦略的なアセット拡大、国内金利上昇等により資金利益が大きく増加

※2024.11.8 公表利益

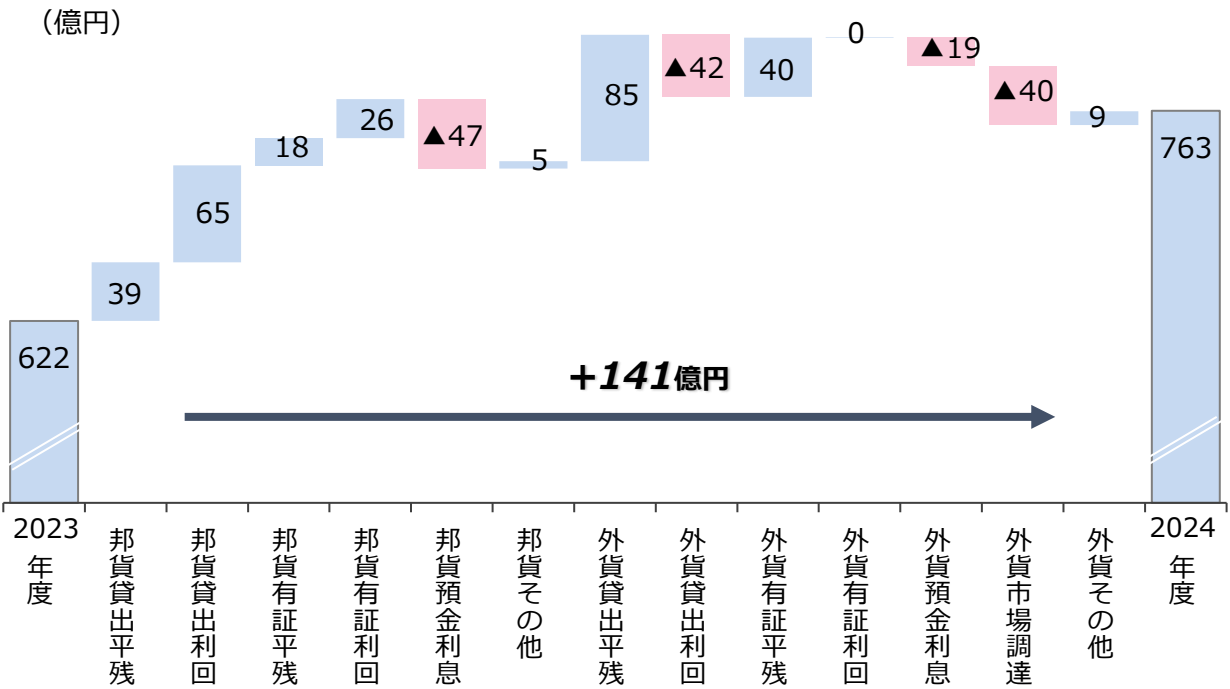
中国銀行 単体 (億円)	2022年度	2023年度	2024年度		
				前年比	公表比※
コア業務粗利益	867	843	997	154	24
資金利益	655	622	763	141	—
役務利益	182	201	216	15	—
その他業務利益	29	19	17	▲ 2	—
経費(▲)	513	528	552	24	▲ 4
O H R	59.1%	62.7%	55.3%	▲ 7.4 p t	—
コア業務純益	354	314	445	131	28
除く投信解約損益	319	314	443	129	—
与信費用 (▲)	50	85	134	49	▲ 14
有価証券関係損益	▲ 17	48	25	▲ 23	▲ 20
その他	▲ 10	▲ 10	9	19	—
経 常 利 益	275	266	345	79	25
当 期 純 利 益	193	184	252	68	22

多様なソリューション提供によりグループ各社の利益は堅調に推移

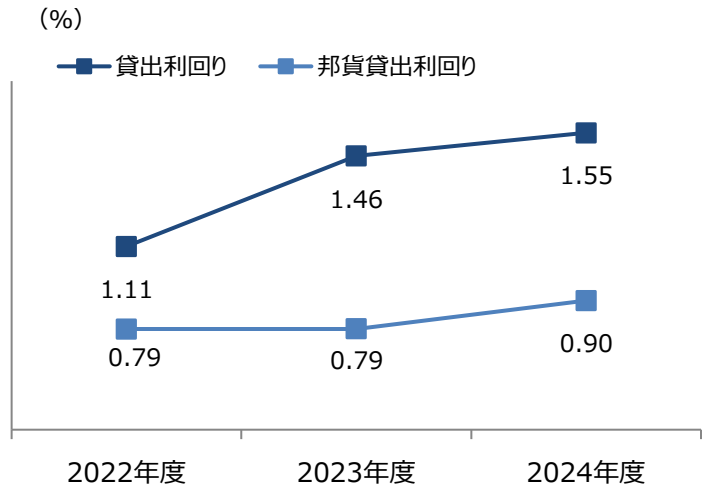
グループ会社	(億円)	経常利益	前年比	純利益	前年比
中銀リース		6.8	▲1.3	4.5	▲0.7
中銀カード		3.1	0.2	2.1	0.3
ちゅうぎんヒューマンイノベーションズ（職業紹介）		0.2	▲0.2	0.1	▲0.1
ちゅうぎんキャピタルパートナーズ（ファンド運営・管理）		0.5	▲0.0	0.3	▲0.0
Cキューブ・コンサルティング（DX・SX等コンサル）		1.7	1.3	1.6	1.2
ちゅうぎんエナジー（再エネ発電など脱炭素支援）		▲0.6	▲0.1	▲0.7	▲0.2
中銀証券		8.6	0.5	6.0	0.1
中銀アセットマネジメント		2.1	0.4	1.5	0.3
中銀事務センター		0.4	0.1	0.3	0.0
CBS（銀行関連事務受託）		2.0	0.3	1.3	0.2
中銀保証		18.8	0.2	12.3	0.2
グループ会社合計		44.0	1.5	29.7	1.4

【資金利益 増減要因】

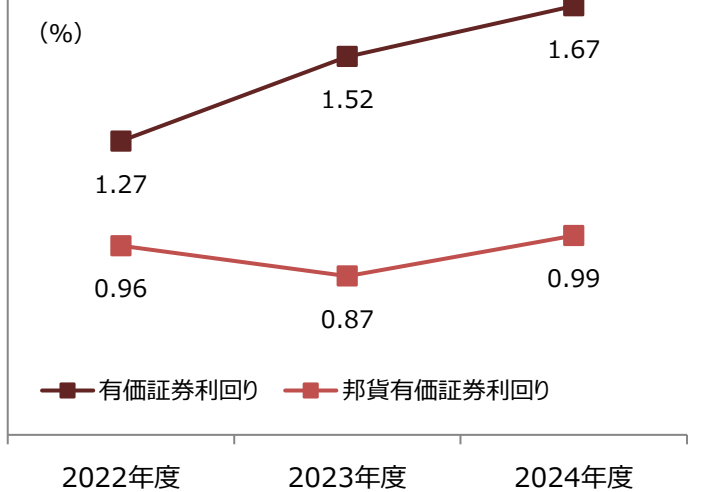
■ 邦貨652億円（前年比+108億円）				■ 外貨111億円（前年比+33億円）			
・貸出金利息	前年比	+105億円		・貸出金利息	前年比	+43億円	
・有価証券利息	前年比	+44億円		・有価証券利息	前年比	+40億円	
・預金利息（▲）	前年比	+47億円		・預金利息（▲）	前年比	+19億円	
・市場運用調達等	前年比	+5億円		・市場運用調達等	前年比	▲31億円	



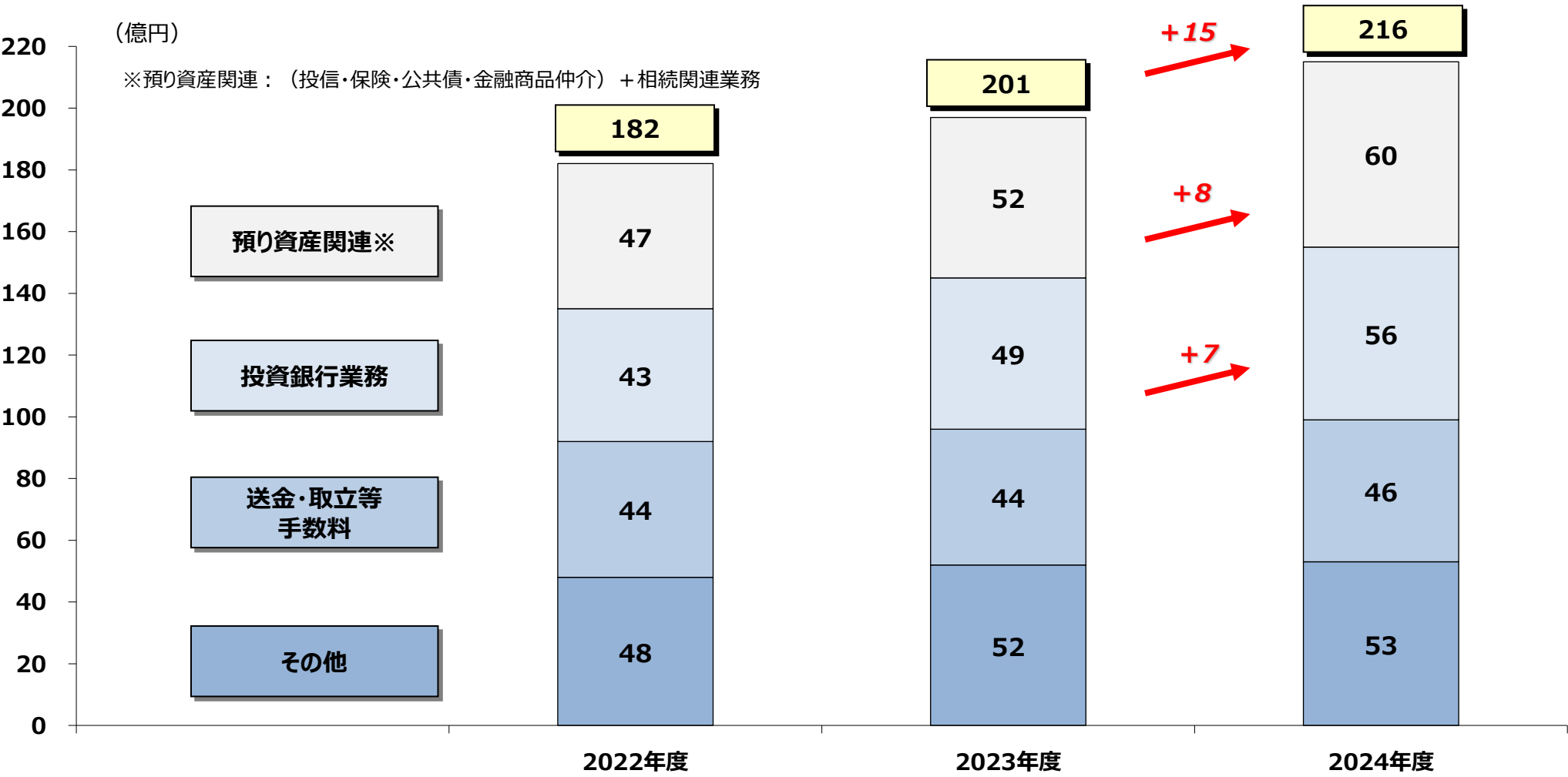
【貸出利回り】



【有価証券利回り】

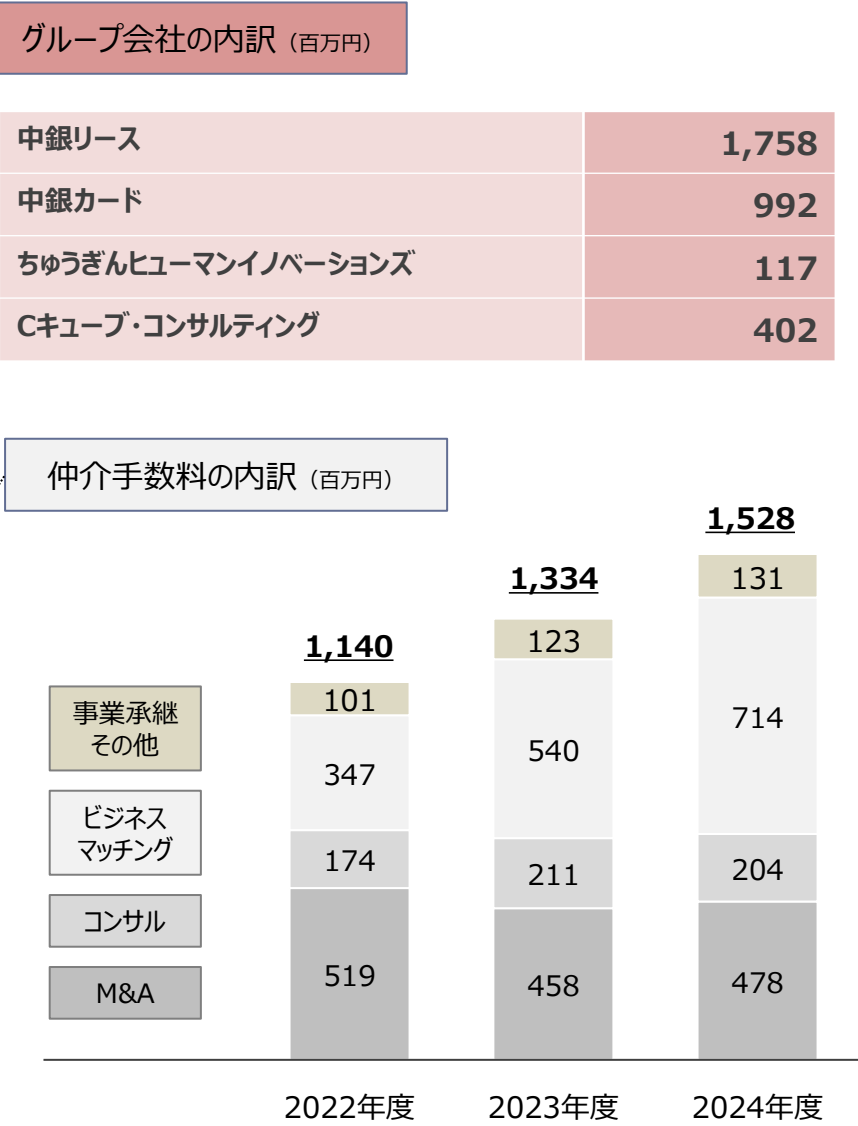
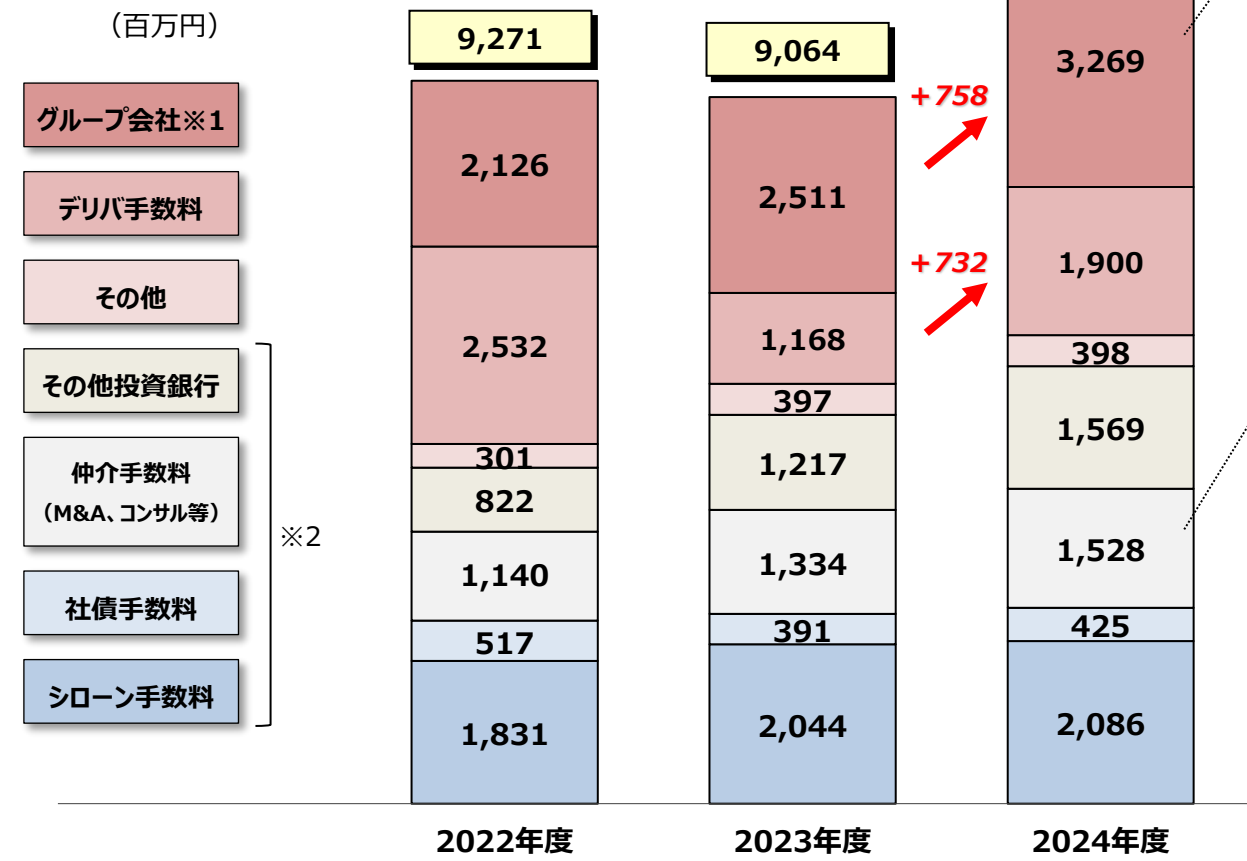


【役務利益 推移】



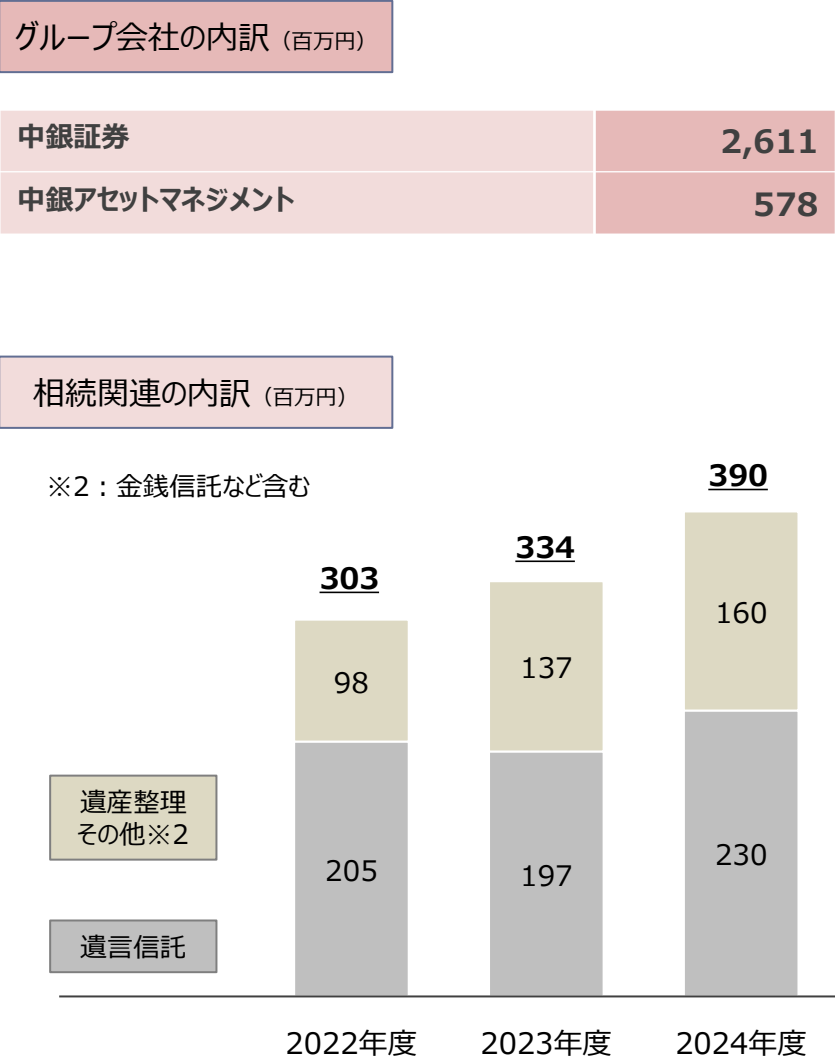
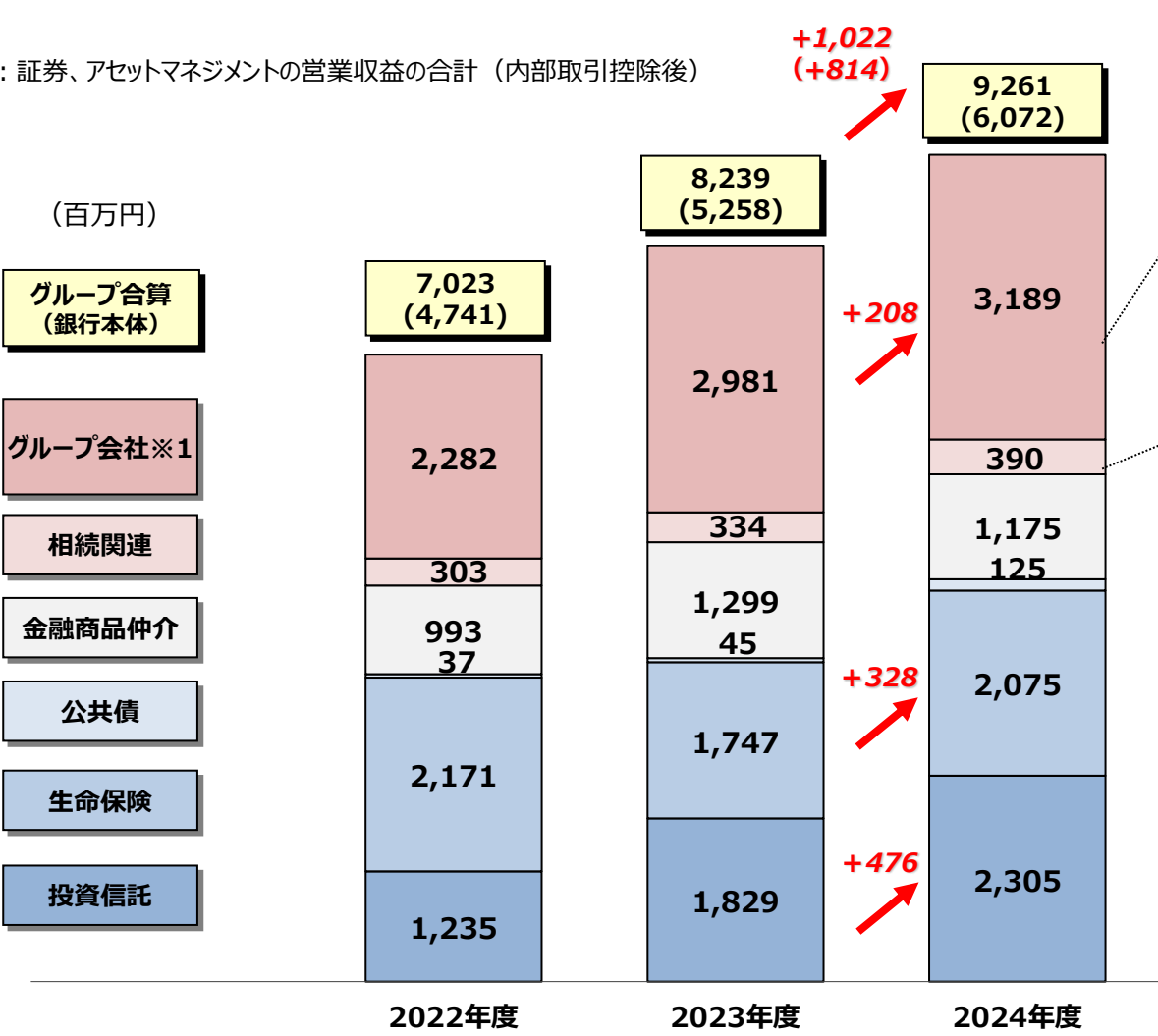
【法人ソリューション関連収益の推移】

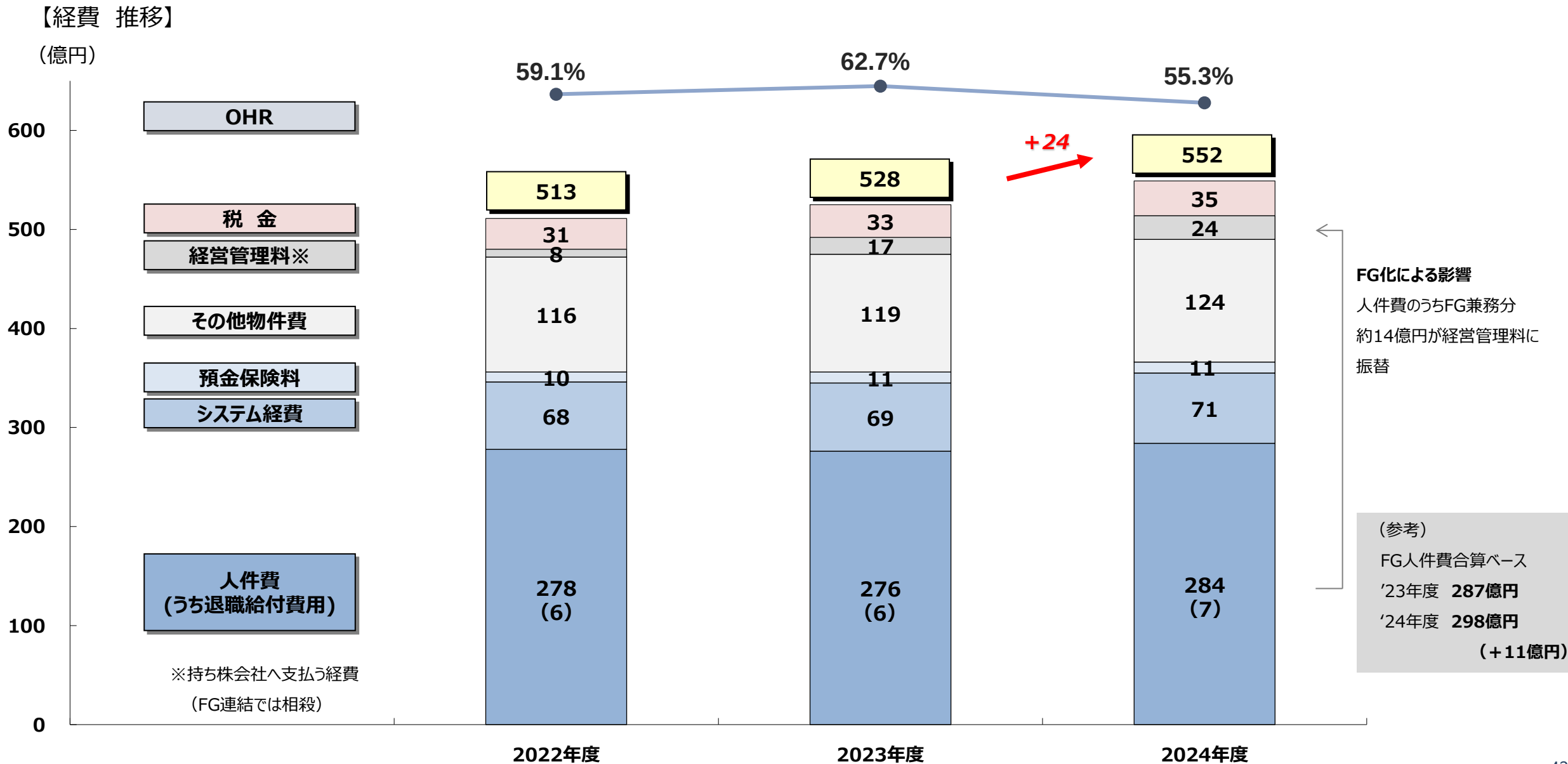
※1：リースの粗利益および、カード、
ヒューマンイノベーションズ、Cキューブ・コンサルティング
の営業収益の合計（内部取引控除後）
※2：役務利益に計上される投資銀行業務



【預り資産関連収益の推移】

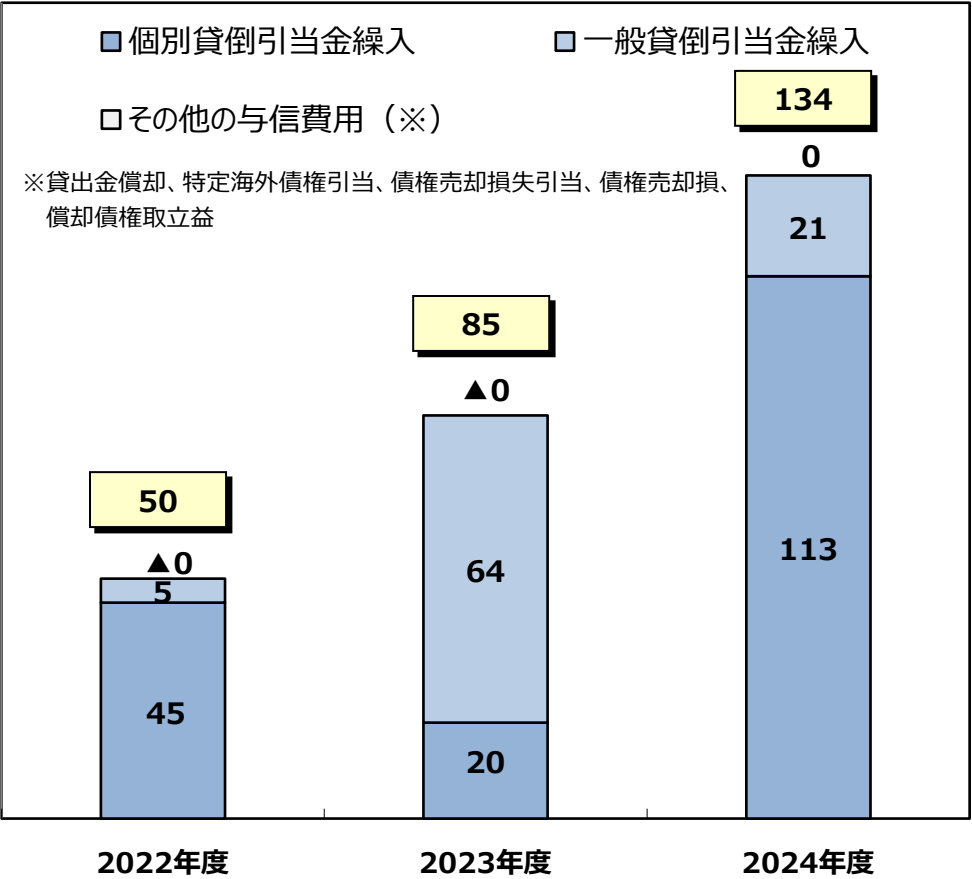
※1：証券、アセットマネジメントの営業収益の合計（内部取引控除後）





【与信費用 推移】

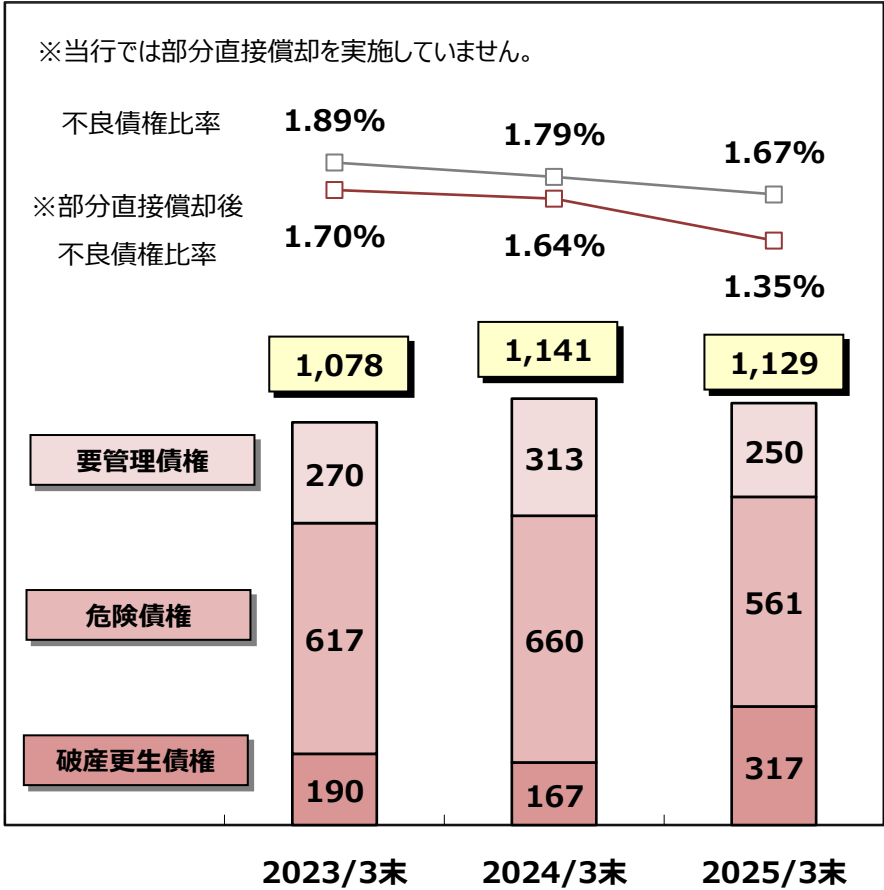
(億円)



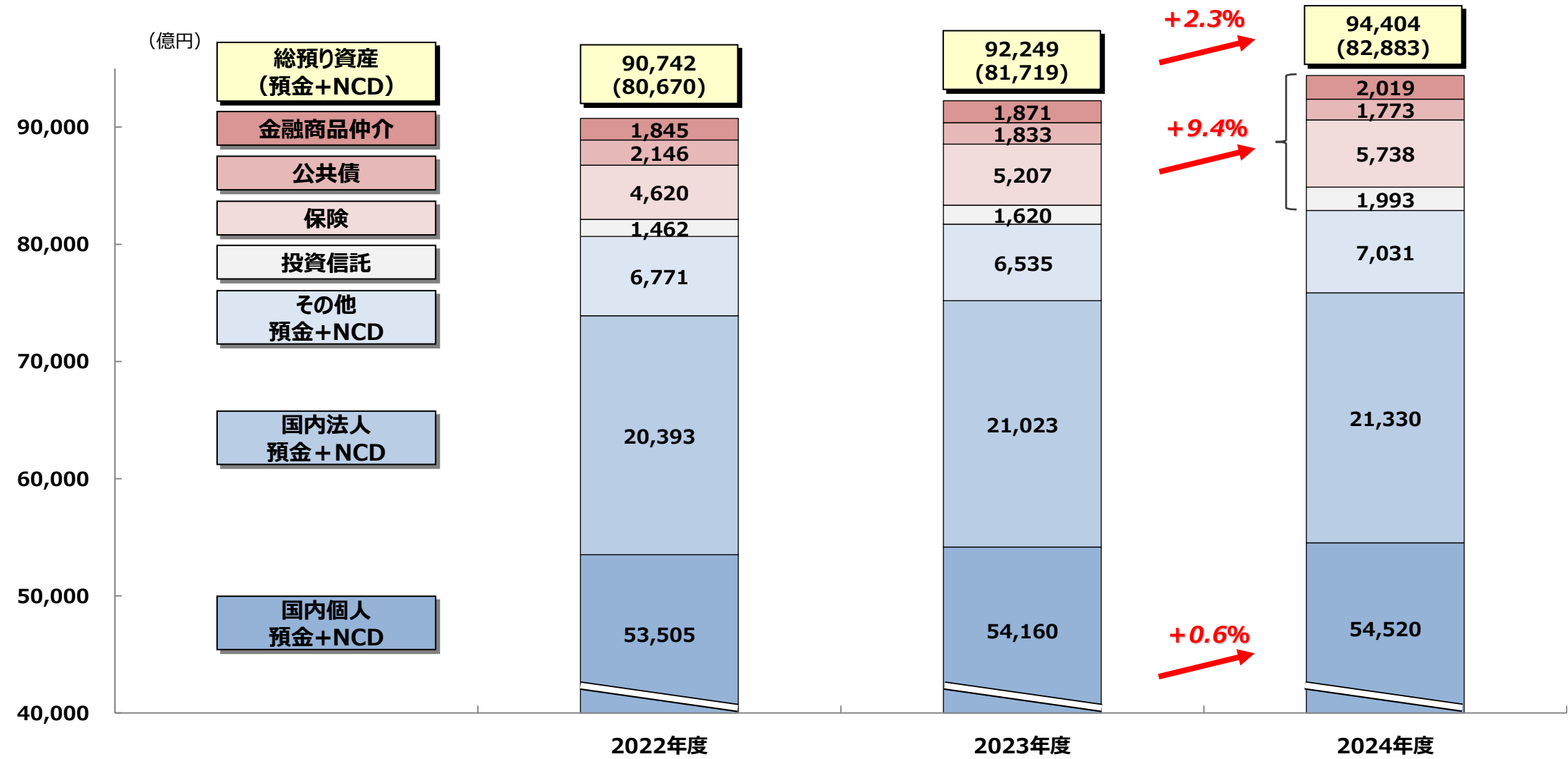
■ 一般貸倒引当金の算定方法

- ・3年間を1算定期間とし、各貸倒実績率から予想損失率を算出。(各算定期間は半年ずらし)
- ・予想損失率は、「直近3算定期間平均」、「直近5算定期間平均」、「2008/9期を期首とした長期平均」のいずれか高いものを使用。(2022/9期より変更)
- ・「正常先」・「要注意先Ⅰ」債権については、貸出債権の平均残存年数を考慮した調整を行っている。

【不良債権の状況（金融再生法開示債権）】 (億円)

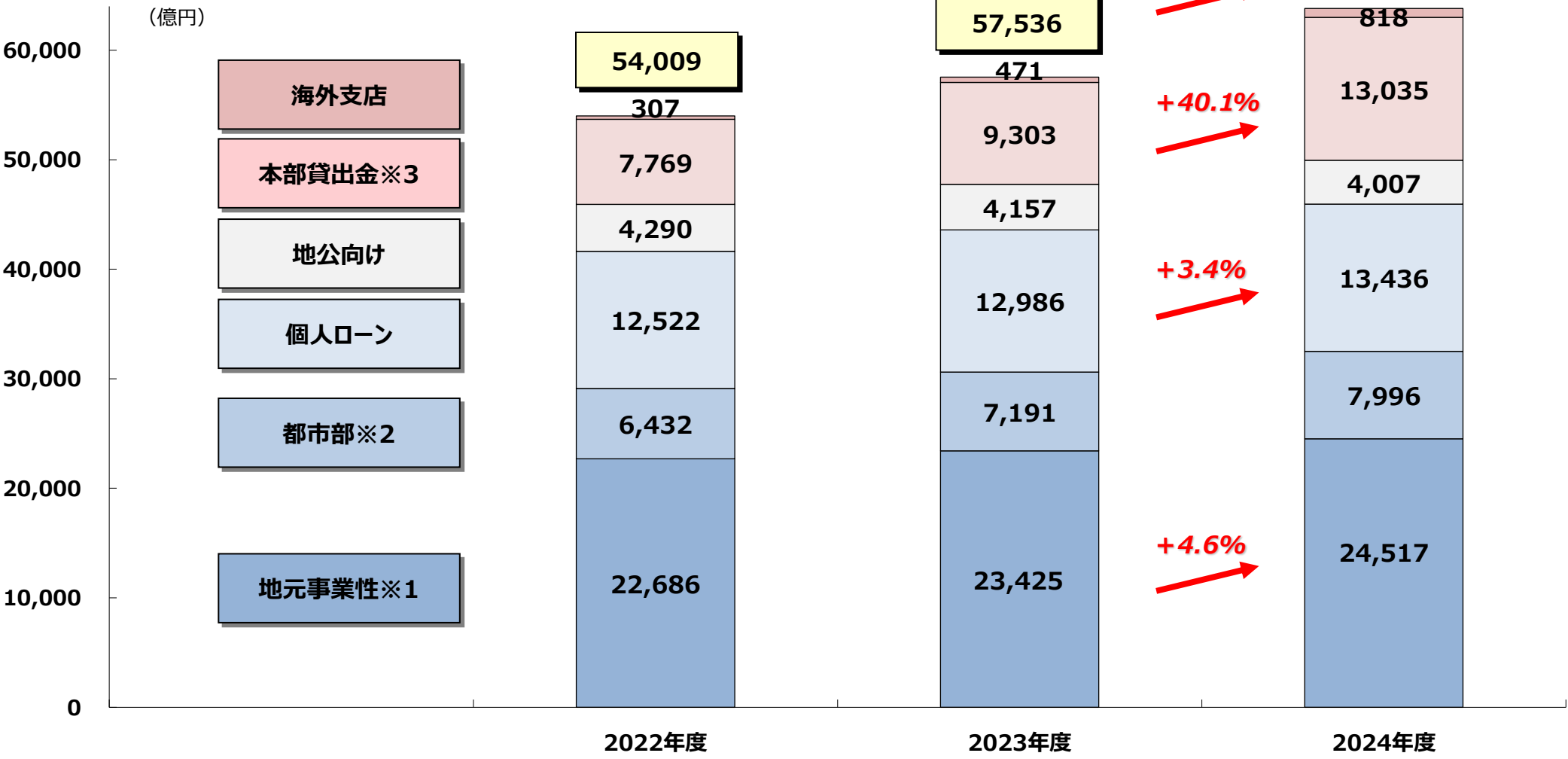


【預金・預り資産 平残推移】



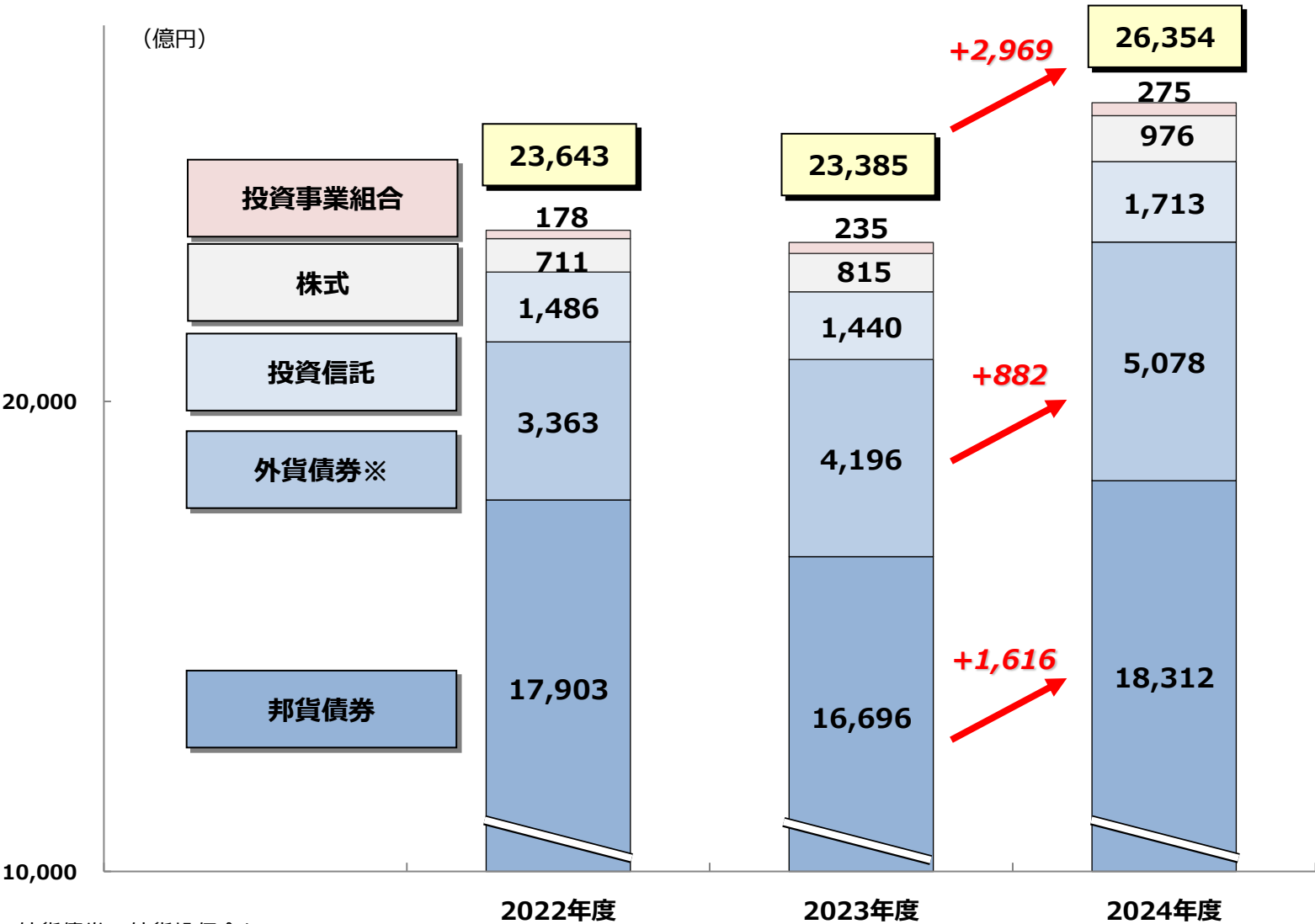
※金融商品仲介は取得価額ベース。公共債は額面ベース。保険は解約を考慮したベース。投資信託（確定拠出年金含む）は純資産ベース。

【貸出金 平残推移】



※ 1 地元：東京・大阪以外の地区 ※ 2 都市部：東京・大阪 ※ 3 本部貸出金：ストラクチャードファイナンス部

【有価証券 平残推移】

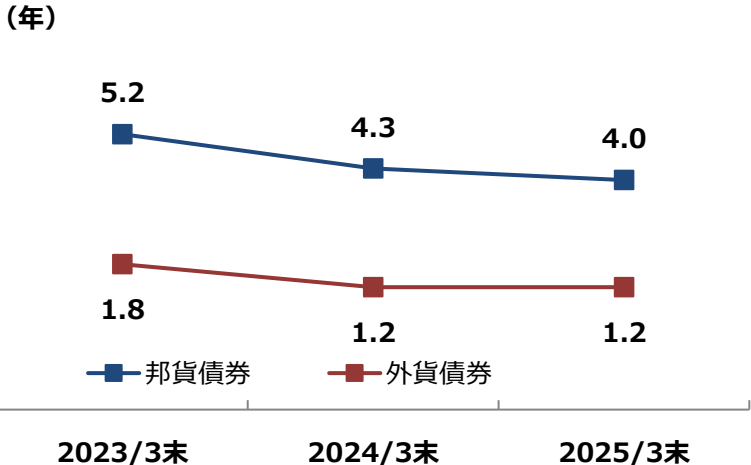


【評価損益】

(億円)

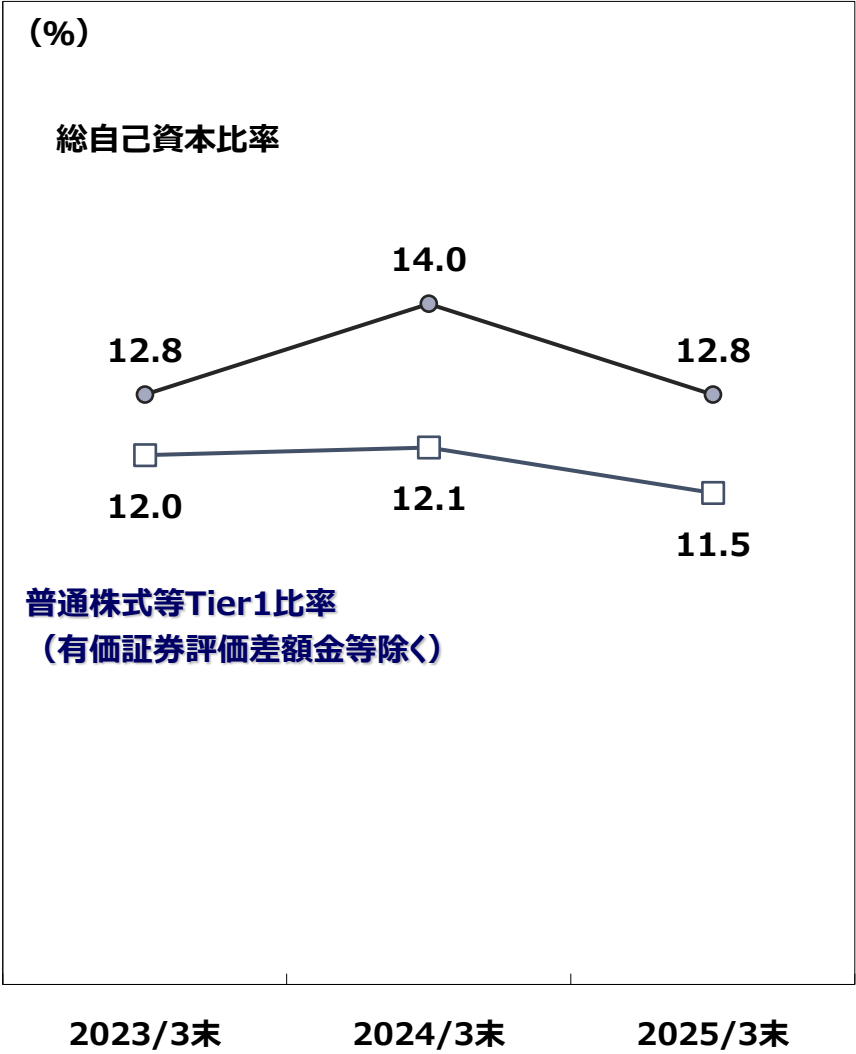
	2024/3末	2025/3末	前期末比
合計	848	125	▲ 723
有価証券	745	▲ 181	▲ 926
満期保有目的	▲ 0	▲ 23	▲ 23
其他有価証券	746	▲ 157	▲ 903
うち株式	732	661	▲ 71
うち投信	484	360	▲ 124
うち外貨債券	▲ 172	▲ 131	41
うち邦貨債券	▲ 302	▲ 1,041	▲ 739
アセットスワップ	103	307	204
外貨金利スワップ	52	32	▲ 20
邦貨金利スワップ	51	274	223

【債券デュレーション】



※外貨債券：外貨投信含む

【比率推移（FG連結）】



【自己資本（FG連結）の状況】

	2024/3期	2025/3期	対比
(億円)			
総自己資本	5,795	5,649	▲146
うち、普通株式等Tier1	5,651	5,199	▲452
うち、有価証券評価差額金等※	628	124	▲504
リスクアセット等	41,224	43,801	2,577
信用リスク	39,729	42,847	3,118
オペレーショナル・リスク	1,495	954	▲541

※有価証券評価差額金および繰延ヘッジ損益（有価証券を対象とするもの）

【その他のバーゼル規制】

	2024/3期	2025/3期	<規制水準>
連結 レバレッジ比率	5.94%	5.20%	3.15%以上
連結 流動性カバレッジ比率（LCR）	152.9%	132.6%	100%以上



この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

本件に関するお問合せ先

株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ 経営企画部 松尾・井上

TEL : 086-234-6519

Eメール : souki01@chugin.jp